

2018年6月20～25日

世論調査(毎日、日経)、改憲・国民投票法、沖縄慰霊の日、政局

毎日世論調査 内閣支持率36% 前回比5ポイント増

毎日新聞 2018年6月24日 15時43分(最終更新 6月24日 16時04分)

毎日新聞が23～24日に実施した全国世論調査で、安倍内閣の支持率は5月の前回調査から5ポイント増の36%、不支持率は同8ポイント減の40%だった。

毎日新聞世論調査 「加計氏招致を」55%

会員限定有料記事 毎日新聞 2018年6月25日 東京朝刊

学校法人「加計学園」の獣医学部新設問題をめぐり、真相解明のため加計孝太郎理事長を国会に招致すべきか聞いたところ、「招致すべきだ」が55%と過半数に達した。「招致する必要はない」は30%だった。加計理事長は19日に記者会見し、学園側が愛媛県に「安倍晋三首相と加計理事長が面会した」と虚偽の説明をしたとして謝罪したが、有権者の疑念は払拭(ふっしょく)されていないようだ。

学校法人「森友学園」問題をめぐっても、政府や国会が「解明を続けるべきだ」は56%で、「解明を続ける…

毎日新聞世論調査 拉致解決期待できず66% 日朝交渉に慎重な見方

毎日新聞 2018年6月25日 東京朝刊

毎日新聞は23、24両日、全国世論調査を実施した。トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩(キムジョンウン)朝鮮労働党委員長の初会談を受け、安倍晋三首相が意欲を示している日朝首脳会談による日本人拉致問題の解決に「期待できる」は18%にとどまり、「期待できない」が66%に上った。12日の米朝首脳会談で金委員長は「拉致問題は解決済み」とする従来の主張は繰り返さなかったが、今後の日朝交渉には慎重な見方が目立った。【池乗有衣】

米朝首脳会談を踏まえ、北朝鮮の核・ミサイル問題を「解決できるとは思わない」は70%で、「解決できると思う」の15%を大きく上回った。

会談では非核化の具体的な日程や方針が示されておらず、国内世論に楽観する意見は少ない。

一方、高所得の一部専門職を労働時間規制から除外する高度プロフェッショナル制度の創設や、残業時間の上限規制を盛り込んだ働き方改革関連法案については「反対」43%、「賛成」30%。無回答も26%あり、有権者の理解は必ずしも深まっていない。

自民党が参院の「1票の格差」是正や「合区」の対象県の候補者救済を狙って国会に提出した、定数を6議席増やす公職選挙法改正案に対しては「賛成」27%、「反対」4

8%だった。

内閣支持5ポイント増

安倍内閣の支持率は5月の前回調査から5ポイント増の36%、不支持率は同8ポイント減の40%だった。支持率は2カ月連続で上昇したが、4カ月連続で不支持が支持を上回った。

■本社世論調査 質問と回答

◆安倍内閣を支持しますか。

	全体	前回	男性	女性
支持する	36	(31)	39	33
支持しない	40	(48)	41	39
関心がない	22	(19)	19	26
<「支持する」と答えた方に>支持する理由は何ですか。				
自民党の首相だから	10	(10)	10	10
安倍さんを評価している	23	(23)	21	26

政策に期待できる	13	(17)	16	10
他に良い人や政党がない	49	(46)	49	49
<「支持しない」と答えた方に>支持しない理由は何ですか。				
自民党の首相だから	3	(2)	6	—
安倍さんを評価していない	50	(58)	51	48
政策に期待できない	31	(27)	25	38
他の人や政党の方が良い	11	(8)	13	8

◆どの政党を支持しますか。

自民党	30	(26)	32	27
立憲民主党	11	(13)	13	9
国民民主党	0	(1)	1	0
公明党	4	(4)	5	4
共産党	2	(4)	2	2
日本維新の会	2	(2)	3	0
自由党	—	(1)	—	—
希望の党	0	(1)	1	0
社民党	1	(0)	1	1
その他の政治団体	1	(1)	0	1
支持政党はない	41	(40)	38	44

◆学校法人「森友学園」の問題で、財務省が国有地の売却価格を値引きした理由や決裁文書を改ざんした動機などが、まだはっきりしていません。政府や国会がこの問題の解明を続けるべきだと思いますか。

解明を続けるべきだ	56	57	55
解明を続ける必要はない	32	34	29

◆学校法人「加計学園」の問題で、学園は愛媛県に対して、「安倍晋三首相と親友の加計孝太郎理事長が面会した」という説明はうそだったとしています。真相を解明するため、加計理事長を国会に招致すべきだと思いますか。

招致すべきだ	55	58	52
--------	----	----	----

招致する必要はない 30 31 30

◆あなたは、森友学園や加計学園の問題で、安倍首相に責任があると思いますか。

責任がある 60 60 61

責任はない 24 26 21

◆アメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が初めて会談しました。北朝鮮は完全な非核化を約束しましたが、具体的なスケジュールや方策は今後の課題です。北朝鮮の核・ミサイル問題が解決できると思いますか。

解決できると思う 15 19 10

解決できるとは思わない 70 71 69

◆安倍首相は、北朝鮮との首脳会談に意欲を示しています。拉致問題の解決が期待できると思いますか。

期待できる 18 19 17

期待できない 66 68 64

◆高所得の一部専門職を労働時間規制から除外する高度プロフェッショナル制度の創設や、残業時間の上限規制などを盛り込んだ働き方改革関連法案について、政府・与党は国会の会期を延長して成立させる方針です。この法案に賛成ですか、反対ですか。

賛成 30 31 30

反対 43 47 40

◆今年秋に自民党総裁選が実施されます。次の自民党総裁に誰がふさわしいと思いますか。

安倍晋三さん 21 (16) 22 20

石破茂さん 17 (20) 20 13

岸田文雄さん 3 (3) 3 2

小泉進次郎さん 18 (17) 20 16

河野太郎さん 3 (2) 3 3

野田聖子さん 3 (3) 3 3

このなかにはいない 18 (18) 15 21

◆成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる改正民法が成立しました。この法律を評価しますか、しませんか。

評価する 42 51 32

評価しない 41 36 46

◆自民党は、参議院の定数を6議席増やす公職選挙法改正案を国会に提出しました。「1票の格差」の是正や、「合区」の対象県の候補者を救済することが狙いです。この改正案に賛成ですか、反対ですか。

賛成 27 27 27

反対 48 56 40

(注) 数字は%、小数点以下を四捨五入。0は0。5%未満、-は回答なし。無回答は省略。カッコ内の数字は5月26、27日の前回調査結果。

調査の方法

6月23、24日の2日間、コンピューターで無作為に数字を組み合わせて作った固定電話と携帯電話の番号に調査員が電話をかけるRDS法で調査した。固定では、福島第1原発事故で帰還困難区域などに指定されている市町村と、大阪府北部地震で被害を受けた大阪府の一部市区の電話番号は除いた。固定は18歳以上の有権者のいる814世帯から518人の回答を得た。回答率64%。携帯は18歳以上につながった番号684件から545人の回答を得た。回答率80%。

内閣支持率、10ポイント増の52% 不支持率と逆転

日経新聞 2018/6/24 18:04

日本経済新聞社とテレビ東京による22～24日の世論調査で、安倍内閣の支持率は52%となり、前回の5月下旬の42%から10ポイント上昇した。不支持率は5月の53%から42%に下がった。支持率が不支持率を上回るのは2月以来、4カ月ぶり。



内閣支持率は4カ月ぶりに不支持を上回った

内閣支持率は2月に56%だったが、学校法人「森友学園」「加計学園」の問題などを受け、3月以降は40%台前半に低迷していた。支持すると答えた人に理由を複数回答で聞くと「国際感覚がある」が37%で最も多く、「安定感がある」の36%、「指導力がある」の22%が続いた。安倍晋三首相の外交手腕に期待が高まったとみられる。

支持率を男女別に見ると、男性56% (前回48%)、女性45% (同33%) だった。

首相と加計学園の加計孝太郎理事長が愛媛県の文書に記載された約3年前の面会をともに否定している主張に「納得できない」は70%だった。「納得できる」は20%にとどまった。森友学園への国有地売却問題を巡り財務省が決裁文書改ざんの関係者を処分したことで同問題が「決着した」は18%で、「決着していない」の75%を下回った。

安倍政権が今国会の重要課題に位置づけるカジノを含む統合型リゾート (IR) 実施法案への賛否を聞いたところ「反対」が53%で「賛成」の33%を上回った。内閣支持

層では「賛成」が49%と「反対」の36%より多かった。

調査は日経リサーチが22～24日に全国の18歳以上の男女に携帯電話も含めて乱数番号（RDD方式）による電話で実施。990件の回答を得た。回答率は47.2%。

内閣支持率、10ポイント増の52% 不支持率と逆転

日経新聞 2018/6/24 18:04

◆本社定例世論調査

（6/22～6/24に実施。単位%、カッコ内は5/25～5/27の
前回調査。四捨五入したため合計が100%とならない場
合がある。内閣支持率は「いけない・わからない」と答
えた人に「お気持ちに近いのはどちらですか」と再度聞
き、政党支持率は「いけない・わからない」「支持政党な
し」と回答した人に「強いて言えばどの政党に好意を持
っていますか」と再度聞いて、それぞれの回答を反映して
いる）

Q 1. あなたは安倍内閣を支持しますか、しませんか。	
支持する	52(42)
支持しない	42(53)
いけない・わからない	6(5)
Q 1 S Q 1.（「支持する」と回答した方に）支持する理 由は何ですか。	
自民党中心の内閣だから	21
政策がよい	17
国際感覚がある	37
指導力がある	22
安定感がある	36
人柄が信頼できる	16
清潔である	5
政府や党の運営の仕方がよい	13
その他	3
いけない・わからない	6
Q 1 S Q 2.（「支持しない」と回答した方に）支持しな い理由は何ですか。	
自民党中心の内閣だから	34

政策が悪い	22
国際感覚がない	11
指導力がない	14
安定感がない	18
人柄が信頼できない	50
清潔でない	24
政府や党の運営の仕方が悪い	31
その他	1
いけない・わからない	5
Q 2. あなたは今、どの政党を支持していますか。ひと つだけお答え下さい。	
自民党	44(42)
立憲民主党	9(12)
国民民主党	0(1)
公明党	4(4)
共産党	4(4)
日本維新の会	1(2)
自由党	0(0)
社民党	1(1)
希望の党	0(0)
その他の政党	0(0)
支持・好意政党なし	30(30)
いけない・わからない	6(5)
Q 3. 今年9月の自民党総裁選では、誰が選ばれるのが ふさわしいと思いますか。次の7人から1人だけお答え 下さい。	
安倍晋三	30(24)
石破茂	20(23)
岸田文雄	3(4)
野田聖子	4(5)

菅義偉	1(0)
河野太郎	3(2)
小泉進次郎	26(28)
その他	0(0)
いけない・わからない	13(13)
Q 4. 次の自民党総裁にどのような政策を期待しますか。次の7個からいくつでもお答え下さい。	
景気回復	39
財政再建	28
社会保障の充実	43
教育の充実	30
外交・安全保障	30
憲法改正	9
政治・行政改革	19
その他	0
いけない・わからない	7
Q 5. 政府・与党はカジノを解禁する「統合型リゾート施設整備法案」について今国会での成立を目指しています。あなたはこの法案に賛成ですか、反対ですか。	
賛成だ	33(35)
反対だ	53(49)
どちらともいえない	5(5)
いけない・わからない	9(10)
Q 6. 自民党は参議院の議員定数を6増やす法案を国会に提出しました。合区によって擁立できなかった県の候補者を救済できるようになります。あなたはこの法案に賛成ですか、反対ですか。	
賛成だ	32
反対だ	51
どちらともいえない	5
いけない・わからない	12

Q 7. 学校法人「森友学園」への国有地売却問題をめぐり、財務省は決裁文書改ざんの関係者を処分しました。あなたは森友学園の問題は決着したと思いますか、思いませんか。	
決着した	18
決着していない	75
どちらともいえない	2
いけない・わからない	6
Q 8. 学校法人「加計学園」の加計孝太郎理事長が記者会見し、愛媛県の文書に記載された約3年前の安倍首相との面会を否定しました。首相も面会を否定しています。あなたは首相や加計理事長のこの主張に納得できますか、できませんか。	
納得できる	20
納得できない	70
どちらともいえない	2
いけない・わからない	7
Q 9. アメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）委員長がシンガポールで会談しました。あなたはこの米朝首脳会談の結果を評価しますか、しませんか。	
評価する	55
評価しない	35
どちらともいえない	4
いけない・わからない	6
Q10. 米朝首脳会談でトランプ大統領は北朝鮮の金正恩委員長に対し日本人拉致問題を提起しました。あなたは安倍政権による拉致問題の解決を期待できますか、できませんか。	
期待できる	32
期待できない	60
どちらともいえない	2
いけない・わからない	5
Q11. 安倍首相は北朝鮮の金正恩委員長との会談に意欲	

を示しています。あなたはこの日朝首脳会談についてどう思いますか。	
首脳会談を早く開くべきだ	60
首脳会談を急ぐ必要はない	33
どちらともいえない	2
いえない・わからない	

日朝首脳会談「早期に」60% 拉致解決「期待できる」32%
日経新聞 2018/6/24 22:00

日本経済新聞社の世論調査で、安倍晋三首相と北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）委員長による日朝首脳会談を「早く開くべきだ」と答えた人は全体の60%だった。「急ぐ必要はない」の33%を大きく上回った。安倍政権による日本人拉致問題の解決を期待できるか聞いたところ「期待できる」は32%で「期待できない」の60%を下回った。



トランプ米大統領と金委員長が12日にシンガポールで開いた米朝首脳会談の結果を「評価する」が55%で「評価しない」が35%だった。

日朝首脳会談を「早く開くべきだ」と答えた人は内閣支持層の61%を占め、内閣不支持層でも60%だった。安倍内閣を支持するかしないかにかかわらず、米朝首脳会談を踏まえ日朝間の対話に期待が高まっているようだ。

拉致問題の解決への期待をめぐっては、内閣支持層で「期待できる」が48%、「期待できない」が46%で拮抗した。内閣不支持層では「期待できない」が80%で「期待できる」の15%を大幅に上回った。

男女別で見ると、「期待できる」は男性で36%、女性で27%。「期待できない」は男性59%、女性62%だった。

参院定数6増法案「反対」51%

2018/6/24 22:00 情報元日本経済新聞 電子版

日本経済新聞社の世論調査で、参院定数を6増やす公職選挙法改正案について「反対」と答えた人は51%で「賛成」

の32%を上回った。

同法案は選挙区の「徳島・高知」「鳥取・島根」の合区で候補者を擁立できなかった県の候補者を比例代表の拘束名簿式の特定枠で救済できる。議員1人当たりの有権者数が最も多い埼玉選挙区の定数を2増やすことも盛り込んだ。自民党は今国会での成立を目指す。世論の支持は十分に得られていない。

内閣支持層では「賛成」が47%で「反対」の38%を上回った。不支持層では「反対」が69%に上り「賛成」は18%にとどまった。自民党支持層でも「賛成」45%、「反対」43%で拮抗している。

次の総裁、首相30%でトップ 自民支持層では52% 政策期待「社会保障」43%

2018/6/24 22:00 情報元日本経済新聞 電子版

日本経済新聞社の世論調査で、安倍晋三首相の自民党総裁任期満了に伴う9月の総裁選で誰が選ばれるのがふさわしいかを聞いたところ、安倍首相が30%と、4月以来の首位に立った。2位は小泉進次郎筆頭副幹事長で26%、3位は石破茂元幹事長の20%だった。自民党支持層に限ると首相は52%で、20%の小泉氏らを引き離れた。

順位	候補者	支持率 (%)	票数
1	安倍晋三	30%	(24)
2	小泉進次郎	26%	(28)
3	石破茂	20%	(23)
4	野田聖子	4%	(5)
5	岸田文雄	3%	(4)
	河野太郎	3%	(2)

(注)敬称略、カッコ内は5月の前回調査

全体の4位は野田聖子総務相で4%。岸田文雄政調会長と河野太郎外相が3%で続いた。

次の総裁に期待する政策を複数回答で聞くと、社会保障の充実が43%で最も多かった。景気回復が39%、教育の充実と外交・安全保障がいずれも30%で続いた。「ポスト安倍」候補の岸田氏や石破氏が口をそろえる財政再建は28%だった。首相が意欲を示す憲法改正は9%にとどまった。

総裁にふさわしい人を聞いた質問を男女別で見ると、男性は首相36%、石破氏23%、小泉氏22%の順だった。女性は小泉氏33%、首相21%、石破氏16%となった。年代別で首相が最も支持を集めたのは18~29歳の45%。この年代は5月の31%から大幅に上がった。30代以上はいずれも30%前後が首相を選んだ。

次の総裁に誰がふさわしいかは1、3、4、5月の調査でも聞いた。学校法人「森友学園」をめぐる財務省の決裁文書改ざんが明らかになる前の1月は、次の総裁として首

相を挙げる人は 35%で小泉氏や石破氏らを大きく上回っていた。3～5月は 20%台に下がったが、今回は 30%に回復した。ただ1月の水準にはなお達していない。

出馬に意欲を示す石破氏は3月に 25%で首位に立ったが、4月以降は伸び悩む。「後ろから鉄砲を撃つのはよくない」という声が側近から上がり最近では政権批判を抑え気味だ。「反安倍」の受け皿になりきれていない。

岸田氏をめぐっては「出馬表明すれば待望論が高まる」との見方が岸田派内にあるが、同氏は今国会の開会中は態度を示さないと述べている。

総裁選は党員・党友による地方票と国会議員票の合計で争われる。総裁は来年夏の参院選などで「選挙の顔」になるため、世論の動向も投票行動に影響を与える。

日経世論調査アーカイブ

2018年6月25日

あなたは安倍内閣を支持しますか、しませんか。
内閣支持率に関する回答の合計

- 52% 支持する
- 42% 支持しない
- 6% いえない・わからない

政党支持率

支持または好意を持っている政党

- 44% 自民党
- 9% 立憲民主党
- 4% 公明党
- 4% 共産党
- 1% 日本維新の会
- 1% 社民党
- 30% 支持(好意)政党なし
- 6% いえない・わからない

自民党総裁選について

今年9月の自民党総裁選では、誰が選ばれるのがふさわしいと思いますか。次の7人から1人だけお答え下さい。

- 30% 安倍晋三
- 20% 石破茂
- 3% 岸田文雄
- 4% 野田聖子
- 1% 菅義偉
- 3% 河野太郎
- 26% 小泉進次郎
- 13% いえない・わからない

自民党総裁に期待する政策について

次の自民党総裁にどのような政策を期待しますか。次の7個からいくつでもお答え下さい。

- 39% 景気回復
- 28% 財政再建
- 43% 社会保障の充実
- 30% 教育の充実
- 30% 外交・安全保障
- 9% 憲法改正
- 19% 政治・行政改革
- 0% その他
- 7% いえない・わからない

統合型リゾート施設整備法案について

政府・与党はカジノを解禁する「統合型リゾート施設整備法案」について今国会での成立を目指しています。あなたはこの法案に賛成ですか、反対ですか。

- 33% 賛成だ
- 53% 反対だ
- 5% どちらともいえない
- 9% いえない・わからない

参院の議員定数を6増やす法案について

自民党は参院の議員定数を6増やす法案を国会に提出しました。合区によって擁立できなかった県の候補者を救済できるようになります。あなたはこの法案に賛成ですか、反対ですか。

- 32% 賛成だ
- 51% 反対だ
- 5% どちらともいえない
- 12% いえない・わからない

森友学園の問題決着について

学校法人「森友学園」への国有地売却問題をめぐり、財務省は決裁文書改ざんの関係者を処分しました。あなたは森友学園の問題は決着したと思いますか、思いませんか。

- 18% 決着した
- 75% 決着していない
- 2% どちらともいえない
- 6% いえない・わからない

加計学園理事長と首相の面会否定について

学校法人「加計学園」の加計孝太郎理事長が記者会見し、愛媛県の文書に記載された約3年前の安倍首相との面会を否定しました。首相も面会を否定しています。あなたは首相や加計理事長のこの主張に納得できますか、できませんか。

- 20% 納得できる
- 70% 納得できない
- 2% どちらともいえない

7% いえない・わからない

米朝首脳会談の結果について

アメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩(キム・ジョンウン)委員長がシンガポールで会談しました。あなたはこの米朝首脳会談の結果を評価しますか、しませんか。

55% 評価する

35% 評価しない

4% どちらともいえない

6% いえない・わからない

安倍政権による拉致問題の解決について

米朝首脳会談でトランプ大統領は北朝鮮の金正恩委員長に対し日本人拉致問題を提起しました。あなたは安倍政権による拉致問題の解決を期待できますか、できませんか。

32% 期待できる

60% 期待できない

2% どちらともいえない

5% いえない・わからない

日朝首脳会談について

安倍首相は北朝鮮の金正恩委員長との会談に意欲を示しています。あなたはこの日朝首脳会談についてどう思いますか。

60% 首脳会談を早く開くべきだ

33% 首脳会談を急ぐ必要はない

2% どちらともいえない

5% いえない・わからない

2018年06月 回答者数 990人

改憲、安倍首相もくろみ外れる＝議論停滞、年内発議も困難か

憲法改正の本格的議論は今国会で行われておらず、延長国会でも進まない公算が大きい。相次ぐ政権の不祥事で主要野党が対決姿勢を強め、改憲に慎重な公明党も議論に及び腰のためだ。今国会での進展を狙った安倍晋三首相のくろみは外れ、年内の国会発議も困難との見方が広がっている。

菅義偉官房長官は22日の記者会見で、改憲に関し「与野党を問わず、考え方を示して建設的な議論を行い、国民的な議論につなげていければと思う」と期待を示した。

自民党は、改憲手続きを定めた国民投票法の改正案を来週にも野党と共同提出し、速やかに成立させた上、衆院憲法審査会で改憲案の議論に入る段取りを描く。公明党が主導した改正案は、商業施設への共通投票所設置など投票機会の拡大を図る内容で、自民党には改憲論議の「呼び水」になるとの読みがあった。

立憲民主、国民民主両党は改正案の趣旨に賛同しており、

与党は共同提出を目指したが、与党による「働き方改革」関連法案やカジノを中核とする統合型リゾート（IR）実施法案の採決強行などで態度を硬化。立憲、国民両党は21日の審査会幹事懇談会を欠席し、立憲幹部は「強引にやれるならやってみろ」と与党をけん制した。

公明党は国民投票法改正案について、表向きには「何としても成立させたい」（北側一雄憲法調査会長）としているが、改憲論議につなげたくないのが本音。公明幹部は「野党が反対すれば改正案の審議にすら入れない。改憲は甘くない」とほくそ笑んだ。

改憲をめぐり首相は、年頭から「国民的議論を一層深める」などと再三言及。3月には自民党内の異論を押し切り9条への自衛隊明記など改憲4項目を意見集約した。来年は統一地方選や参院選、天皇陛下退位などの大型行事が控えているため、首相には、年内の国会発議を目指して今国会で議論を加速させる狙いがあった。

首相の思惑通りに進んでいない状況に、自民党の閣僚経験者は「年内発議なんてもう無理だ」と冷やかに語った。

（時事通信 2018/06/22-20:03）

9条2項の議論を＝自民・石破氏

自民党の石破茂元幹事長は24日、仙台市で講演し、トランプ米大統領が将来の在韓米軍撤退を示唆したことに関し、「朝鮮半島から米国が引くと日本は最前線に立つことになる。安全保障を本当に正面から議論しなければならぬ」と述べ、戦力不保持と交戦権否認を定めた憲法9条2項の削除の必要性を改めて強調した。（時事通信 2018/06/24-18:02）

国民投票法改正案 「4党提出」野党けん制 公明副代表

毎日新聞 2018年6月22日 東京朝刊

公明党の北側一雄副代表は21日の記者会見で、憲法改正の手続きを定める国民投票法改正案について「何としても成立させたい。来週、早い段階で共同提出したい」と述べた。ただ、与野党対立が続く中、立憲民主党や国民民主党は慎重姿勢を崩しておらず、共同提出の枠組みや時期はなお不透明だ。

同改正案は一般の選挙について定める公職選挙法とのずれを解消する内容。自民、公明両党による共同提出の呼びかけに応じる意向を示しているのは日本維新の会と希望の党のみで、立憲や国民は21日の衆院憲法審査会幹事懇談会を欠席した。

北側氏は「4党で共同提出するので、あといくつ（の党が）乗ってもらえるかだ」と立憲などをけん制。与党は26日に幹事懇を開き、立憲や国民に改めて共同提出を呼びかける考えだ。【田中裕之】

公明 北側氏、国民投票法改正案「来週、提出したい」

毎日新聞 2018年6月21日 19時04分(最終更新 6月21日 19時04分)

公明党の北側一雄副代表は21日の記者会見で、憲法改正の手続きを定める国民投票法改正案について「何としても成立させたい。来週、早い段階で共同提出したい」と述べた。ただ、与野党対立が続く中、立憲民主党や国民民主党は慎重姿勢を崩しておらず、共同提出の枠組みや時期はなお不透明だ。

同改正案は一般の選挙について定める公職選挙法とのずれを解消する内容。自民、公明両党による共同提出の呼びかけに応じる意向を示しているのは日本維新の会と希望の党のみで、立憲や国民は21日の衆院憲法審査会幹事懇談会を欠席した。

北側氏は会見で維新と希望を念頭に「4党で共同提出するので、あといくつ(の党が)乗ってもらえるかだ」と立憲などをけん制。ただ、改憲内容の議論加速化を狙う自民党内には「主な野党との協調を図るべきだ」との声もあり、与党は26日に幹事懇を開き、立憲や国民などに改めて共同提出を呼びかける考えだ。【田中裕之】

国民投票法改正案 公明幹部「来週に共同提出を」

日経新聞 2018/6/21 13:45

公明党の北側一雄中央幹事会会長は21日の記者会見で、憲法改正の手続きを定める国民投票法の改正案について「来週の早い段階で(国会に)共同提出したい」と述べた。自民、公明両党や日本維新の会のほか、立憲民主党や国民民主党など他の野党からも賛同を得られるよう協議を続ける。7月22日まで会期を延長した今国会で成立をめざす。

国民投票法改正案は、商業施設に共通投票所を設置できるようにすることなどが柱。公職選挙法の改

産経新聞 2018.6.21 20:13 更新

【憲法改正】国民投票法改正案、自公維が26日に国会提出へ 今国会の成立目指す

自民、公明両党と日本維新の会は21日、憲法改正の手続きを定めた国民投票法改正案について、26日に衆院へ提出を目指す方針を確認した。立憲民主党や国民民主党にも共同提出に加わるよう求めるが、自公維は、立民などの協力が得られなくても法案を提出し、会期を7月22日まで延長した今国会で成立させる意向だ。

衆院憲法審査会の与野党幹事は21日の非公式会合で、26日に幹事懇談会を開き、改正案の提出を協議する方針を決めた。立民と国民は会合を欠席した。

自公維は、改正案を28日の審査会で審議入りさせる考えだ。公明党の北側一雄憲法調査会会長は21日の記者会見で「来週の早い段階で法案を国会に提出したい。国会会期を1カ月延長したから十分、成立させられる」と述べた。

改正案は、洋上投票の拡大や、駅や商業施設に共通投票

所を設置することなど、平成28年に改正した公職選挙法を反映する内容。法案の趣旨には、立民や国民も賛同している。5月31日に自公と立民、国民などが6月6日の提出で一旦合意したが、野党側の国会対策委員会の意向で見送られた経緯がある。

公明 北側氏 参院選挙制度で「大選挙区制」導入案提出を検討

NHK2018年6月21日 13時22分



参議院の選挙制度をめぐり、公明党の北側中央幹事会会長は、自民党が提出している定数を6増やすなどとした公職選挙法の改正案への対案として、全国を11のブロックに分けた「大選挙区制」を導入する法案の提出を検討する考えを示しました。

参議院の選挙制度をめぐって、自民党などは、1票の格差を是正するため定数を6増やすなどとした公職選挙法の改正案を提出しているのに対し、野党側は「国民の理解が得られない」などと反対しています。

これについて、公明党の北側中央幹事会会長は記者会見で、「公明党も、今の選挙区と比例代表を廃止して、全国を11のブロックに分けた『大選挙区制』を導入するという案を持っている。党として対案を出すかどうかも含めて検討していきたい」と述べました。

一方、北側氏は、憲法改正の是非を問う国民投票の投票所を駅の構内などにも設けられるようにするなどとした国民投票法改正案について「会期が延長されたので、何としても成立させたい」と述べ、来週にも賛同する党と共同で国会に提出したいという考えを示しました。

産経新聞 2018.6.24 18:59 更新

維新、参院選挙制度改革で公明案に賛成も



日本維新の会の松井一郎代表(安元雄太撮影)

日本維新の会の松井一郎代表は24日、大阪市内で開いた常任役員会で、参院選挙制度改革をめぐり、公明党が提出を検討する全国11ブロックの大選挙区制に賛成することもあり得るとの認識を示した。「参院だけ定数が増えるのは阻止してほしい。われわれの主張は削減だが、よりベタ

一な形として定数を増やさない案が出れば、公明党案に賛成する」と述べた。

維新もこれまで全国11ブロックの大選挙区制を提唱。ただ同党の参院議員は11人で、法案提出に必要な20人以上の条件を満たさず、独自案の提出は難しい状況だ。

馬場伸幸幹事長は記者団に「希望の党と調整しており、相乗りで対案を出すこともないわけではないが、公明党案が一番近い。法案提出となれば（共同提出の）可能性も高い」と語った。

公明党 公職選挙法改正案の対案提出を検討

毎日新聞 2018年6月22日 東京朝刊

公明党の北側一雄副代表は21日の記者会見で、自民党が国会に提出した参院定数を6増する公職選挙法改正案に関し「我が党としても対案を出すかどうかも含めて検討したい」と述べ、対案を提出する可能性に含みを持たせた。公明は従来、定数を変えずに全国を11ブロックに分ける大選挙区制の導入を主張している。

参院選挙制度めぐり各党が議論

NHK6月24日 12時42分



参議院の選挙制度をめぐり、NHKの「日曜討論」で、自民党は、1票の格差を是正するため、定数を6増やすなどとした公職選挙法の改正案に理解を求めましたが、野党側は党利党略の案で国民の理解は得られないとして、反対する考えを示しました。

参議院の選挙制度をめぐり、自民党などは、1票の格差を是正するため、定数を6増やすとともに、比例代表に、あらかじめ政党が決めた順位に従って当選者を決められる「特定枠」を導入するなどとした公職選挙法の改正案を参議院に提出しています。

これについて、自民党の柴山筆頭副幹事長は「憲法改正で、広域自治体ごとに代表を選べる余地を残していくべきではないかと訴えてきたが、次善の策として『特定枠』を考えている。参議院の行政監視委員会の通年化をはじめ、行政をチェックする機能を重視すると、定数の増加も正当化されるのではないか。1票の格差も3倍は切ることができ、少なくとも一步は前に踏み出せているのではないかと述べました。

これに対し、立憲民主党の福山幹事長は「国会の会期末になって突然出てきた、合区で立候補できない自民党議員を救済するための案で論外だ。定数増は今の時代に国民の理

解は得られないし、部分的に『拘束名簿式』だけを導入しようというのは、全くもって理解不能で、すぐに取り下げてもらいたい」と述べました。

国民民主党の古川幹事長は「まさに党利党略ここに極まりということだ。合区で調整しなければいけないのは自民党だけで、そのために定数を増やすのは受け入れられないし、延長国会でやることは、到底、認められない。われわれもきちんと考え方を示していく」と述べました。

公明党の斉藤幹事長代行は「われわれは、ブロックごとの大選挙区制を提案しているが、なかなか各党の合意が得られない。今の国会でなにもしなければ、次の参議院選挙で、最高裁から違憲判決が出るのは明々白々で、幅広い合意が得られる努力を続けていかなくてはならない」と述べました。

共産党の小池書記局長は「合区で議席を失う議員の救済制度で、党利党略、究極のご都合主義だ。1票の価値の平等と民意の正確な反映を担保するのが選挙制度改革の根本で、この原則に基づく抜本改革が必要だ」と述べました。

日本維新の会の馬場幹事長は「全国的に、地方議会は人口減に伴って、定数を減らしていくのが主流になっているのに、なぜ、国会だけが定数を増やすのかということについて、国民の理解は全く得られない」と述べました。

自由党の森幹事長代理は「合区導入を進めておいて、困ったから、急に案を出すのは、全く説得力がない。制度もわかりにくくなり有権者にもよくない」と述べました。

希望の党の行田幹事長は「自民党案は合区で漏れた現職議員を救済するというもので、国民の理解が得られない。定数増は時代に逆行しており反対だ」と述べました。

社民党の吉川幹事長は「究極の党利党略で裏口入学のようなものだ。選挙制度はすべての政党に関わる問題で、数の力でなんとかしてはならない話だ」と述べました。

沖縄に核「貯蔵」、米が当初要望 国務省が「密約」公開 朝日新聞デジタル土佐茂生＝ワシントン、伊藤喜之 2018年6月23日 17時02分

米国務省が公開した外交文書から、1969年に佐藤栄作元首相とニクソン元米大統領が結んだ「核密約」に至る交渉の詳細が明らかになった。米側は沖縄における核能力を極めて重視し、沖縄返還の最低条件として、米側は沖縄の米軍基地において核兵器の「緊急時の貯蔵」と「通過」の権利を求めていた。専門家は、米国の核戦略や思惑の詳細がわかる貴重な文書だとしている。

沖縄核密約

1969年11月19日の日米首脳会談で、佐藤栄作首相とニクソン大統領がひそかに結んだとされる。有事の際、沖縄への核兵器の再持ち込みを容認する内容で、2009年に両首脳による合意議事録が見つかった。

20日に公表された文書は500ページ以上にのぼる。

ニクソン、フォード両政権の外交政策において、主要な問題を文書化した一連の記録の一部で、69～72年までの日本に対する米国の政策をまとめたものだ。

当時のキッシンジャー大統領補佐官(国家安全保障担当)が69年3月12日付でニクソン大統領に宛てた覚書は沖縄返還がテーマだった。キッシンジャー氏は「軍事的コスト」として、「沖縄の核貯蔵を失うことは、太平洋における我が国の核能力を低下させ、柔軟性を減少させる」と指摘、統合参謀本部が非常に懸念していると伝えている。

一方で「政治的コスト」の部分では、日本国内で沖縄返還を求める世論の拡大を分析。佐藤政権が69年中に早期の沖縄返還で合意できなければ、70年に10年間の期限を迎える日米安全保障条約で日本が強硬姿勢に変わる恐れがあったとした。米国にとって、アジアの米軍展開に欠かせない沖縄の基地を支える日米安保条約は重要なものであった。

その上で、沖縄返還に伴う交渉事項の一番に「核貯蔵」を掲げ、「最も厳しい交渉議題は、沖縄で核兵器の貯蔵を引き続き維持する権利についてだ」と強調。日本が沖縄から核兵器を完全に撤廃するよう求める公算が大きいと分析した上で妥協点を探っている。

キッシンジャー氏はまず、暫定期間を設けて核兵器を維持し続ける案を検討したが、国民の不満が高まり、国会も同意しないと指摘。日本と交渉の余地がある選択肢の一つとして、「重大な緊急事態が起きた場合、沖縄に核兵器を再び持ち込む権利」を挙げた。

この選択肢については「アジアにおいて、深刻な核の脅威がある場合に役立つだろうが、取り決めは極めて秘密でなければならない」とも指摘した。

覚書ではもう一つの選択肢も示されているが、内容については機密解除されていない。

沖縄返還交渉に詳しい琉球大学の我部政明教授は「69年3月の段階で米軍には現状を維持し、核を沖縄で貯蔵をしたい意向があった。キッシンジャー氏はこれが難しいと理解し、緊急時の持ち込みは可能ではないかと考えた」と指摘。その上で、「最初は、沖縄の基地への『緊急時の貯蔵』(ストレージ)と『通過する権利』という言葉に重点があったのが分かる。その後、『緊急時の貯蔵』から『再持ち込み』(リエントリー)に表現が弱められたのだろう」と話している。

キッシンジャー氏は文書の最後に「交渉戦術」として、▽駐日米国大使を通じ、ニクソン氏が沖縄返還に反対しないが、両国関係の緊張を懸念していることを伝える▽日米首脳会談では核貯蔵の最終決定を脇に置いて、沖縄と日本の基地の使用を交渉する▽他の詳細がまとまった段階で、ニクソン氏が佐藤首相に核の交渉カードを見せる、などと細かく指示している。

我部教授は「核兵器の交渉を最初から持ち出さず、最後

まで引っ張ることで、日本から最大の利益を得る駆け引きになるとキッシンジャー氏は考えていた。国務省や国防総省、大統領の意向を調整しながら戦術を練っていたことがよく分かる」と指摘している。

また、今回の文書には、沖縄返還に合意した日米首脳会談後、米政府高官と米議会幹部が開いた会合を記録した69年1月21日付のメモもあった。ホイラー統合参謀本部議長は沖縄の核兵器について「現状維持」が最善だったとの考えを示しつつ、緊急事態の際に沖縄へ核を再持ち込みできる権利などが日米間の合意に盛り込まれたことを「喜ばしい」と歓迎している。(土佐茂生=ワシントン、伊藤喜之)

沖縄で撮られた核兵器の写真、米公文書館で見つかる 朝日新聞デジタル岡田玄 2016年2月20日 05時09分



米公文書館で見つかった、沖縄で1964年までに撮影された核ミサイルの写真=NSA提供



米軍統治下にあった1960年代の沖縄で撮影された核兵器の写真を米シンクタンク「国家安全保障公文書館」(NSA)が米公文書館で発見した。沖縄関係の米公文書に詳しい琉球大の我部政明教授(国際政治学)は、返還前の沖縄で撮影された核兵器の写真が公文書として見つかるのは「おそらく初めてだろう」と話している。

NSAは3枚の沖縄関連の写真を公開。写真に付けられ

た米空軍の説明によると、うち2枚は、62年に嘉手納基地であった「武器装着競技会」で撮影されたもので、同基地所属部隊と板付基地（福岡市）所属部隊が、飛行機に核爆弾を装着したり、準備したりする場面とされる。もう1枚は核ミサイル「メースB」を整備する様子が写されていた。

72年に日本に返還される前の米軍統治下の沖縄で、核兵器が配備されていたことは、すでに米公文書から明らかになっている。

写真はNSAホームページ（<http://nsarchive.gwu.edu/nukevault/ebb541-Nukes-on-Okinawa-Declassified-2016/>）で見ることができる。（岡田玄）

沖縄、核戦略の拠点だった 元米兵「世界の終わりだ」と
朝日新聞デジタル岡田玄 2016年2月12日 16時46分



「世界

の終わりだと思った」と話す元米兵のポール・カーペンターさん＝米ペンシルベニア州、岡田玄撮影



米ソが核兵器を配備してにらみ合った冷戦期、1972年の本土復帰まで米軍統治下だった沖縄には、多くの核兵器が配備されていた。核戦争の危険が近づいた62年のキューバ危機では緊張が頂点に。嘉手納基地で核兵器の整備に携わった元兵士が、極限の任務を振り返った。

「家族にはもう会えないと思った」。米ペンシルベニア州の自宅で、ポール・カーペンターさん（77）が厳しい表情で振り返った。

カーペンターさんの所属は核兵器を管理する部隊。50年代に続き、61年から嘉手納に勤務していた。任務の自身は極秘で、同じ部隊のほかの班がしていることも知らされず、家族にも話せなかったという。

62年10月14日、キューバにソ連の核ミサイルが配備されたことが発覚し、米ソの緊張が一気に高まった。

およそ2週間後の26日、カーペンターさんは、嘉手納基地近くの新居にいた。妻と3人の子どもと一緒に。突然、電話で呼び出され、基地へ着くと、輸送機で韓国・群山（クンサン）基地へ向かった。

その時、「近づく人間は撃て」と命じられたという。核物質が入った金属製容器を輸送機で運搬するためだ。当時の核爆弾は、核物質が入った部分を爆弾の本体にはめこむ形状だった。

容器は高さ80センチほど。形が鳥かごに似ていて「バードケージ」と呼ばれた。中にはプルトニウムが入っていた。群山で戦闘機が待っており、持ってきた核物質を核爆弾に装着。「ロシアや中国を攻撃する。世界の終わりだと思った」

10月27日、米国の偵察機が…

翁長知事「辺野古に新基地、造らせない」平和宣言全文
朝日新聞デジタル 2018年6月23日 13時25分

沖縄慰霊の日の平和宣言で、翁長雄志知事は普天間飛行場の辺野古移設について「容認できない」と述べた。全文は以下の通り。

◇

二十数万人余（よ）の尊い命を奪い去った地上戦が繰り返されてから、73日目となる6月23日を迎えました。私たちは、この悲惨な体験から戦争の愚かさ、命の尊さという教訓を学び、平和を希求する「沖縄のこころ」を大事に今日（こんにち）を生きています。

戦後焼け野が原となった沖縄で、私たちはこの「沖縄のこころ」をよりどころとして、復興と発展の道を力強く歩んできました。

しかしながら、戦後実に73年を経た現在においても、日本の国土面積の約0・6%にすぎないこの沖縄に、米軍専用施設面積の約70・3%が存在し続けており、県民は、広大な米軍基地から派生する事件・事故、騒音をはじめとする環境問題等に苦しみ、悩まされ続けています。

昨今、東アジアをめぐる安全保障環境は、大きく変化しており、先日の、米朝首脳会談においても、朝鮮半島の非核化への取り組みや平和体制の構築について共同声明が発表されるなど緊張緩和に向けた動きがはじまっています。

平和を求める大きな流れの中にあっても、20年以上も

前に合意した辺野古への移設が普天間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのでしょうか。日米両政府は現行計画を見直すべきではないのでしょうか。民意を顧みず工事が進められている辺野古新基地建設については、沖縄の基地負担軽減に逆行しているばかりではなく、アジアの緊張緩和の流れにも逆行していると言わざるを得ず、全く容認できるものではありません。「辺野古に新基地を造らせない」という私の決意は県民とともにあり、これからもみじんも揺らぐことはありません。

これまで、歴代の沖縄県知事が何度も訴えてきたとおり、沖縄の米軍基地問題は、日本全体の安全保障の問題であり、国民全体で負担すべきものであります。国民の皆様には、沖縄の基地の現状や日米安全保障体制の在り方について、真摯（しんし）に考えていただきたいと願っています。

東アジアでの対話の進展の一方で、依然として世界では、地域紛争やテロなどにより、人権侵害、難民、飢餓、貧困などの多くの問題が山積しています。

世界中の人々が、民族や宗教、そして価値観の違いを乗り越えて、強い意志で平和を求め協力して取り組んでいかなければなりません。

かつて沖縄は「万国津梁（しんりょう）」の精神の下、アジアの国々との交易や交流を通し、平和的共存共栄の時代を歩んできた歴史があります。

そして、現在の沖縄は、アジアのダイナミズムを取り込むことによって、再び、アジアの国々を絆（つな）ぐことができる素地ができてきており、日本とアジアの架橋（かけはし）としての役割を担うことが期待されています。

その期待に応えられるよう、私たち沖縄県民は、アジア地域の発展と平和の実現に向け、沖縄が誇るソフトパワーなどの強みを発揮していくとともに、沖縄戦の悲惨な実相や教訓を正しく次世代に伝えていくことで、一層、国際社会に貢献する役割を果たしていかなければなりません。

本日、慰霊の日に当たり、犠牲になられた全ての御霊（みたま）に心から哀悼の誠を捧げるとともに、恒久平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に伝え、未来を担う子や孫が心を穏やかに笑顔で暮らせる「平和で誇りある豊かな沖縄」を築くため、全力で取り組んでいく決意をここに宣言します。

<慰霊の日>政府と沖縄溝深く 首相、今年も辺野古触れず

毎日新聞 6/23(土) 21:22 配信

沖縄県糸満市で23日開かれた沖縄全戦没者追悼式で、安倍晋三首相と翁長雄志知事が言葉を交わす場面は見られなかった。米軍普天間飛行場（同県宜野湾市）の移設計画で、政府は8月、同県名護市辺野古の埋め立て予定海域に土砂の投入を始める予定。11月には知事選（1日告示、18日投開票）が控える。移設問題が新たな段階を迎える

中、政府と県の立場は隔たったままだ。



沖縄全戦没者追悼式で献花を終えた安倍晋三首相（中央）。左後方は翁長知事＝沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園で2018年6月23日午後0時10分、野田武撮影

追悼式で翁長氏が「辺野古に新基地を造らせないという私の決意はこれからもみじんも揺らぐことはない」と訴えると、会場からは拍手が起こった。一方、首相は「基地負担を減らすため、一つ一つ、確実に結果を出していく」と述べたが、辺野古移設には今年も触れなかった。

知事選は移設計画の是非が最大の争点だ。しかし、その前哨戦となった今年の県内市長選で翁長氏は安倍政権に押し込まれてきた。2月の名護市長選では翁長氏と二人三脚で移設阻止を訴えてきた現職が自民、公明両党と日本維新の会が推す新人に敗北。3月の石垣、4月の沖縄両市長選でも翁長氏系の候補が敗れた。

名護市長選後、政府は前市長時代に凍結していた米軍再編交付金の再開を決定した。翁長県政を揺さぶりつつ、8月17日にも現地で埋め立てに着手する。

翁長氏は5月に膝（すい）がんと公表し、治療を受けながら公務にあたっている。県議会の支持会派は知事選への立候補に望みをかけるが、翁長氏は「一日一日公務を着実にこなしたい」と去就を明言していない。一方、自民党は、知事選で「勝てる候補」として佐喜真（さきま）淳宜野湾市長らを軸に人選を急ぐ。

県は移設計画を阻止するため、前知事による埋め立て承認の「撤回」を検討している。ただ、2016年12月の最高裁判決は、埋め立て承認を取り消した翁長氏の対応を違法と判断した。県が仮に撤回に踏み切っても、法的には厳しいとの見方は根強い。

追悼式後、首相は「最高裁の判決に従って移設を進めていく」と記者団に語った。埋め立て前に県や名護市と協議するかという問いには直接答えず、「県や地元の協力や理解をいただくために努力を重ねる」と述べた。

翁長氏は過去3年、追悼式後に那覇空港で首相を見送ってきたが、今年は謝花喜一郎副知事が代役を務めた。【遠藤孝康、川辺和将】

沖縄慰霊の日 首相あいさつ (全文)

毎日新聞 2018年6月23日 18時00分(最終更新 6月23日 21時59分)

平成30年・沖縄全戦没者追悼式が執り行われるに当たり、沖縄戦において、戦場に倒れた御霊、戦禍に遭われ亡くなられた御霊に向かい、謹んで哀悼の誠を捧(ささ)げます。

先の大戦において、ここ沖縄は、苛烈を極めた地上戦の場となりました。20万人もの尊い命が無残にも奪われ、この地の誇る豊かな海と緑は破壊され、沖縄の地は焦土と化しました。多くの夢や希望を抱きながら倒れた若者たち、我が子の無事を願いながら息絶えた父や母、平和の礎(いしじ)に刻まれた全ての戦没者の無念を思うとき、胸の潰れる思いです。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、沖縄の人々の、筆舌に尽くしがたい困難と癒えることのない深い悲しみの上にある。そのことを深く噛(か)み締めながら、静かに頭(こうべ)を垂れたいと思います。

我が国は、戦後一貫して、平和を重んじる国として、ひたすらに歩んでまいりました。戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この決然たる誓いを貫き、万人が心豊かに暮らせる世の中を実現する。そのことに不断の努力を重ねていくことを、改めて、御霊にお誓い申し上げます。

沖縄の方々には、永きにわたり、米軍基地の集中による大きな負担を担っていただいております。この現状は、何としても変えていかなければなりません。政府として、基地負担を減らすため、一つ一つ、確実に、結果を出していく決意であります。

本年3月には、嘉手納以南の西普天間住宅地区跡地の引き渡しが実現し、跡地利用の取り組みが進んでおります。

「できることはすべて行う」。引き続き、この方針の下、沖縄の基地負担軽減に全力を尽くしてまいります。

今、沖縄は、美しい自然、東アジアの中心に位置する地理的特性を活(い)かし、飛躍的な発展を遂げています。昨年、沖縄県を訪れた観光客の数はハワイを上回りました。今や、沖縄は、かつての琉球の大交易時代に謳(うた)われたように、「万国津梁」、世界の架け橋の地位を占めつつあります。アジアと日本をつなぐゲートウエーとして、沖縄が日本の発展を牽引(けんいん)する、そのことが現実のものとなってきたと実感しています。この流れをさらに加速させるため、私が先頭に立って、沖縄の振興を前に進めてまいります。

結びに、この地に眠る御霊の安らかならんこと、御遺族の方々の御平安を、心からお祈りし、私の挨拶(あいさつ)といたします。

恒久平和誓う慰霊の日 沖縄全戦没者追悼式 翁長知事、辺野古新基地見直し求める

沖縄タイムス 6/23(土) 12:55 配信



沖縄全戦没者追悼式で、平和宣言を読み上げる沖縄県の翁長雄志知事＝23日午後、沖縄県糸満市の平和祈念公園

戦後73年の「慰霊の日」の23日、沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式(主催・県、県議会)が執り行われた。県内外から遺族や関係者ら約5100人が参列。正午に合わせて黙とうし、住民を巻き込んだ凄惨(せいさん)な沖縄戦で亡くなった20万人を超える犠牲者の冥福を祈り、不戦と恒久平和を誓った。翁長雄志知事は平和宣言で、戦後73年を経ても全国の米軍専用施設の70・3%が沖縄に集中し、基地から派生する事件・事故や環境問題に悩まされ続けている理不尽さを訴えた。先日の米朝首脳会談など緊張緩和に向けた東アジアの安全保障環境の変容に触れ、「20年以上も前に合意した辺野古への移設が普天間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのか」と日米両政府に現行計画の見直しを求めた。

さらに、民意を顧みない辺野古新基地建設は沖縄の基地負担軽減だけでなく、アジアの緊張緩和にも逆行していると指摘。「『辺野古に新基地を造らせない』との私の決意は県民と共にあり、これからもみじんも揺らぐことはない」と強調した。

県遺族連合会の宮城篤正会長は「米軍普天間飛行場の早急な移設を熱望すると同時に戦争につながる新たな基地建設に断固反対する」と訴えた。老朽化する県内各地の慰霊塔を国の責任で維持・管理するよう求めた。

安倍晋三首相は来賓あいさつで、沖縄の過重な基地負担の現状を「何としても変えていかなければならない。政府として一つ一つ確実に結果を出していく」と決意。西普天間住宅地区跡地の引き渡しが3月に実現したことで「跡地利用の取り組みが進んでいる。引き続き、沖縄の基地負担軽減に全力を尽くす」と述べた。沖縄が日本の振興発展をけん引する流れをさらに加速させるため、「私が先頭に立って沖縄振興を前に進める」とした。

大島理森衆院議長と伊達忠一参院議長、福井照沖縄担当

相ら関係閣僚も参列した。

同公園内の「平和の礎」には朝早くから遺族らが多く訪れ、亡き家族・親族に思いをはせ、鎮魂の祈りをささげていた。

翁長知事「辺野古新基地建設はアジアの緊張緩和に逆行」
平和宣言

琉球新報 2018年6月23日 12:55



平和宣言をする翁長雄志知事＝23日、糸満市摩文仁

翁長雄志知事は23日の沖縄全戦没者追悼式の平和宣言で、「朝鮮半島の非核化への取り組みや平和体制の構築について緊張緩和に向けた動きが始まっている」と述べ、対話による東アジアの安全保障環境の変化を歓迎した。

その上で、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設計画について「平和を求める大きな流れの中にあっても、20年以上も前に合意した辺野古への移設が普天間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのか。民意を顧みず工事が進められている辺野古新基地建設は、沖縄の基地負担軽減に逆行しているばかりではなく、アジアの緊張緩和の流れにも逆行していると言わざるを得ず、全く容認できるものではない」と訴え、新たな軍事基地の建設に異議を唱えた。

翁長知事が平和宣言で辺野古新基地建設問題に言及するのは、就任以来4年連続。政府が8月17日にも辺野古の海域に土砂の投入を始めることを県に通知する中で、「『辺野古に新基地を造らせない』という私の決意は県民とともにあり、これからもみじんも揺らぐことはない」と建設阻止の決意を改めて示した。

翁長知事は国土面積の0・6%の沖縄に米軍専用施設面積の70・3%が集中している現状に触れ、「沖縄の基地の現状や日米安全保障体制のあり方について真摯に考えてほしい」と国民全体の議論を求めた。

また、「かつて沖縄はアジアの国々との交易や歴史を通し、平和的共存共栄の時代を歩んできた歴史がある」とアジア

と日本の架け橋としての沖縄の役割に言及し、「アジア地域の発展と平和の実現に向け、国際社会に貢献する役割を果たしていかなければならない」と呼び掛けた。【琉球新報電子版】

安倍首相「基地負担の軽減に全力を尽くす」 米軍機事故への言及なし

琉球新報 2018年6月23日 12:56



沖縄全戦没者追悼式であいさつする安倍晋三首相＝23日、糸満市摩文仁

安倍晋三首相は23日の沖縄全戦没者追悼式であいさつし、米軍西普天間住宅地区跡地の返還跡利用の進展を踏まえて『『できることは全て行う』の方針の下、沖縄の基地負担の軽減に全力を尽くす』と述べた。

一方で、国として8月17日の埋め立て開始を県に通知した米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設や、相次ぐ米軍機事故の発生などへの言及はなかった。

安倍首相は「今日、私たちが享受する平和と繁栄は、沖縄の人々の筆舌に尽くしがたい苦難と癒えることない深い悲しみの上にある。そのことを深くかみしめながら、静かに頭をたれたい」と戦没者を追悼した。

また「アジアと日本をつなぐゲートウェイとして、沖縄が日本の発展を牽引することが現実のものとなってきた」と述べ、沖縄振興の推進に意欲を示した。【琉球新報電子版】

小野寺防衛相「辺野古移設、理解得る努力したい」

朝日新聞デジタル 2018年6月23日 20時00分



小野寺五典防衛相

小野寺五典防衛相（発言録）

(沖縄慰霊の日の平和宣言で、沖縄県の翁長雄志知事が米朝首脳会談に触れて普天間飛行場の辺野古移設に反対を表明したことを問われ) 北朝鮮の問題が外交の中で解決することは重要だ。だが現時点では、北朝鮮は核・弾道ミサイルについて何ら具体的な動きを示していない。

また在日米軍基地は、北朝鮮のみならず、この地域の安全保障上の重要な役割を果たしている。私どもとしては普天間の一日も早い危険性除去のために、辺野古移設についてこれからも丁寧に説明し、ご理解を得る努力をしていきたい。(那覇市で記者団に)

「沖縄の問題は日本全体の問題だ」 糸数慶子・参院議員
毎日新聞 2018年6月22日



糸数慶子氏＝小

川昌宏撮影

本土復帰時の「希望」今も届かず

沖縄が本土復帰を目指した時は、沖縄に米軍が駐留しているために県民の人権と尊厳がないがしろにされていて、復帰しなければ沖縄の人は人間として暮らしていけないという思いがあった。平和憲法のもとに復帰することが沖縄での人間としての尊厳を守ることになると思っていた。

だから「核抜き、本土並み」。核兵器のない、そして米軍基地は本土並みだというスローガンで復帰を目指した。しかし、喜びはつかの間だった。

5月15日の復帰46年にあわせた大会が5月14日に宜野湾市であった。その会場に立って怒りと涙がない交ぜになって本当に複雑な気持ちになった。

私は復帰の年(1972年)に結婚し、10月に娘が生まれた。この子が成人するころには沖縄はきっと変わっているという思いで、未来に希望という願いを込めて「未希」と名付けた。

米軍占領下でどういうことが起こっていたかという、高校生が青信号で渡っているのに米軍車両がひき逃げして米国に帰ればなんの罪にも問われない。少女がレイプされて遺棄されても、その米兵がどういう罪に問われたかわからない。

そういうことが日常的に繰り返されるのは米軍の占領下にあるからであって、復帰すれば変わるという希望をみんなが持っていた。しかし、復帰しても何も変わらない。振り返って涙が出てくるのは、娘が3人生まれて孫が7人生まれても、あの時に希望を託した子供たちに子供ができて、それどころじゃないという現実が今、目の前にある。

米軍の垂直離着陸輸送機「オスプレイ」をいらなくても配備する。名護市辺野古に新しい基地はいらなくてもいいことを選挙で問うても、民意を無視してどんどん進める。そして、今の憲法を具現化していく努力はしないで、時代にそぐわないからと言って変えようとする。

朝鮮半島の平和が希望に

朝鮮半島の状況が変わろうとしている。南北の戦争状態が終結し、非核化も含めて平和的に解決され、極東アジア全体が静かになれば、沖縄にある米軍の基地はいらなくなる。

沖縄の米軍基地や、辺野古の新しい基地はなぜ必要なのか。中国だ、北朝鮮だといって、脅威をあおっているのは日本政府だ。そのうえに南西諸島の島しょ防衛という形で、与那国や宮古、石垣に自衛隊の基地をどんどん作っていく。

米国も加わって、南北が平和交渉をしようとしている現在の世界情勢と全く逆に、圧力をかけろという日本政府(安倍晋三首相)は、危機感をあおって自衛隊の基地を強化している。それを沖縄の県民を表に立たせてやっている。

日本は世界情勢から取り残されている。極東アジアで米国、中国、北朝鮮、韓国が平和を作ろうとしている時に、そこに参加しようとしな。そんなに自分たちの外交に自信がないのか。

安倍晋三首相は一時期、しきりに「戦後レジームからの脱却」と言っていたが、脱却どころか冷戦構造にのめり込んだままで全く卒業しようとしな。「戦後レジーム」とは安倍首相にとってなんなのかと問いたい。

世界はどんどん進んでいるのに、日本だけが相変わらず冷戦思考で取り残されている。国内に解決しなければならぬ多くの問題を抱えているのに、新しい米軍基地のために、とほうもない時間や予算を費やす必要が本当にあるのか。安倍首相からまず変わるべきだし、変わることをできないなら代わってもらわな。

安倍首相とトランプ米大統領は親しいというが、米朝は日本の頭越しで外交をやっている。日本は米国と北朝鮮が交渉した結果に従うだけなのか。

日米地位協定は不平等条約

日米地位協定は本当に不平等条約だ。事故が起きても、事故現場の調査に国会議員も警察も消防も入れない。2017年の東村高江の米軍ヘリの事故でも、土まで持ち去られて現場には何も残っていない。

政治家としてやるべき政治の課題はたくさんあるのに、いつもこのような基地問題に時間を奪われている。沖縄ではひんぱんに事件、事故が起きて、私たちはその都度、地位協定の高い壁に阻まれている。

本土の政治家は直接自分の問題として遭遇していないから、不平等条約もなんとも思わない。自分の問題だと思わない。自分の県で自分の選挙区でこんなことがあったら、本当に見過ごすのか。

沖縄の米海兵隊は沖縄の本土復帰前に本土から移ってきた。それは本土で事件、事故が起こっては困るということがあったからではないのか。

では沖縄は日本ではないのか。戦争中にあれだけの犠牲を払われ、さらに米軍がずっと居座っている。沖縄は、「本土は守っても沖縄は守らないのか」と思っている。

沖縄は海の向こうにあるし、県の人口はたった140万だから、しょうがないというふうに思っているのか。沖縄が差別されていると、私たちが思い続けてしまっているということは本当によくないことだ。

沖縄を切り捨てるな

特に政治のなかに、まだ沖縄は日本ではないと思っている人がいるのではないのか。野中広務元自民党幹事長のような政治家がいたころはまだ良識があった。沖縄は大変な現実を背負っている、県民の犠牲のうえに戦後があって、さらにまた米軍の基地負担が続いている。負担を負わせている現実を認め、沖縄への深い思いがあった方々がいた。今はそれが全くない。

本当に沖縄によりそっているなら、政府や党の役職が終わっても沖縄とずっと交流しながら、沖縄は何を本当に望んでいるんですかと、県民の立場に立つ。そういう人が1人でもいれば歯止めになる。しかし、その歯止めが今はない。

河野（太郎外相）さんは父の河野洋平さんと同様、沖縄のことをわかってくれる政治家だと思っていた。しかし、外相になったら、全然発言しない。ポストについた時に自分の発言を変えるのは、やはりちゃんとした信念がないとしか思えない。これは沖縄にとっても日本にとっても不幸なことだ。

日本は47都道府県からできている。東京だけを中心に考えて1県だけ切り捨てるのはおかしい。どうしても差別の構造ができていく。結局自分の場所だけは守るということだ。これが今の政治のすべてだ。

民主主義の根幹は少数派の声を大切に、全体で受け止めることにある。なぜ受け止められないのか。自分の選挙区に米軍基地は困る。しかし沖縄には置いていいということで良いのか。

人ごとだと思っていると、気がついた時にはもう遅いという状況になる可能性もある。岩国（山口県）に米軍のオスプレイが行き、佐賀にも自衛隊のオスプレイが配備される。日本全体が沖縄と似たような状況になっていった時、どうするのか。ただ「自分の住んでいるところに来なければいい」ということなのか。

沖縄だけの問題としてではなく、日本全体の問題として考えてほしい。

※本コメント機能は Facebook Ireland Limited によって提供されており、この機能によって生じた損害に対して毎日新聞社は一切の責任を負いません。また、投稿は利用規

約に同意したものとみなします。

プロフィール



糸数慶子

参院議員

1947年生まれ。平和バスガイド、沖縄県議などを経て、2004年参院初当選。参院沖縄。当選3回。無所属。

沖縄慰霊の日 曾祖母の体験聞き「命よ響け」 平和の詩

毎日新聞 2018年6月23日 11時02分(最終更新 6月23日 17時29分)



沖縄全戦没者追悼式のリハーサルで「平和の詩」を朗読する相良倫子さん＝沖縄県糸満市の平和祈念公園で2018年6月23日、野田武撮影

中学3年・相良さん

追悼式では、沖縄県浦添市立港川中学3年の相良倫子（さがらりんこ）さん（14）が、自作の平和の詩「生きる」を朗読した。沖縄戦を生き抜いた曾祖母の体験を聞き、「平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きること」と考えた。生まれ育ったこの美しい島から伝えたい。「鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。命よ響け。生きゆく未来に。私は今を、生きていく」

相良さんの詩は県平和祈念資料館が募った「平和の詩」971点の中から選ばれた。

うるま市に住む94歳の曾祖母は戦前から理容店で働き、地上戦を体験。友人が目の前で被弾して命を落としたことや家族と離ればなれになった話を聞き、相良さんは「戦争の残酷さを感じた。曾祖母の存在から平和や戦争について考える機会が増えた」と振り返る。

5月に曾祖母が入院したことで、「生きる」を詩のテーマに決めた。「優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた」「青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった」。作品では「戦争の残酷さがより伝わる」と美しい島の現在の情景と73年

前の戦場を対比的に描いた。

「戦争は人を鬼に変えてしまうから絶対してはいけない」と教えてくれた曾祖母。「この詩が一人でも多くの人に平和や戦争について考えるきっかけになってほしい」と願う。

「一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ」【佐野格】

沖縄慰霊の日 平和の詩「生きる」全文

毎日新聞 2018年6月23日 12時43分(最終更新 6月23日 22時37分)



沖縄全戦没者追悼式で「平和の詩」を朗読する相良倫子さん＝沖縄県糸満市で2018年6月23日、津村豊和撮影

「生きる」

沖縄県浦添市立港川中学校 3年 相良倫子

私は、生きている。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、
草の匂いを鼻孔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、
何と美しい島だろう。
青く輝く海、
岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、
山羊の嘶き、
小川のせせらぎ、
畑に続く小道、
萌え出づる山の緑、
優しい三線の響き、
照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、
生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、
島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが
この瞬間の愛おしさが
今と言う安らぎとなり
私の中に広がりゆく。

たまらなく込み上げるこの気持ちを
どう表現しよう。

大切な今よ
かけがえのない今よ
私の生きる、この今よ。

七十三年前、
私の愛する島が、死の島と化したあの日。
小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。
優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。
青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。
草の匂いは死臭で濁り、
光り輝いていた海の水面は、
戦艦で埋め尽くされた。
火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、
燃えつくされた民家、火薬の匂い。
着弾に揺れる大地。血に染まった海。
魍魎魍魎の如く、姿を変えた人々。
阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。
私と何も変わらない、
懸命に生きる命だったのだ。
彼らの人生を、それぞれの未来を。
疑うことなく、思い描いていたんだ。
家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。
仕事があった。生きがいがあった。
日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、
私と同じ、人間だった。
それなのに。
壊されて、奪われた。
生きた時代が違う。ただ、それだけで。
無辜の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。
悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。
私は手を強く握り、誓う。
奪われた命に想いを馳せて、
心から、誓う。

私が生きている限り、
こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。
もう二度と過去を未来にしないこと。
全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。
生きる事、命を大切にできることを、
誰からも侵されない世界を創ること。
平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。
この島の美しさを。
あなたも、知っているだろう。
この島の悲しみを。
そして、あなたも、
私と同じこの瞬間（とき）を
一緒に生きているのだ。

今と一緒に、生きているのだ。

だから、きっとわかるはずなんだ。
戦争の無意味さを。本当の平和を。
頭じゃなくて、その心で。
戦力という愚かな力を持つことで、
得られる平和など、本当は無いことを。
平和とは、あたり前に生きること。
その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は、今を生きている。
みんなと一緒に。
そして、これからも生きていく。
一日一日を大切に。
平和を想って。平和を祈って。
なぜなら、未来は、
この瞬間の延長線上にあるからだ。
つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。
誇り高き、みんなの島。
そして、この島に生きる、すべての命。
私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これからも、共に生きてゆこう。
この青に囲まれた美しい故郷から。
真の平和を発進しよう。
一人一人が立ち上がって、
みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、
私の命が鳴っている。
過去と現在、未来の共鳴。
鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。
命よ響け。生きゆく未来に。
私は今を、生きていく。

沖縄慰霊の日 妹1歳、生きた証し残せた 「礎」に刻銘
毎日新聞 2018年6月23日 12時27分(最終更新 6月23日 15時14分)

夏の強い日差しが照りつける中、沖縄は23日、「慰霊の日」を迎え、鎮魂の祈りに包まれた。壮絶な地上戦の末、沖縄戦最後の激戦地となった沖縄県糸満市の平和祈念公園や慰霊碑には早朝から多くの人が訪れ、犠牲者を悼んだ。73年がたっても癒えぬ肉親を亡くした悲しみ。平和を希求する若者の願い。それぞれが戦禍に思いをはせ、非戦を誓った。

顔も覚えていない。戦時中の混乱のためか戸籍に名前も残されていなかった。沖縄戦のさなか、毎日おんぶしていた赤ん坊の妹は泣き声すら発せず、力尽きた。その妹の名前が戦後73年の今年、戦没者の名前を刻む「平和の礎（いしじ）」（糸満市摩文仁）に追加刻銘された。沖縄県読谷（よみたん）村の国吉園（その）さん（83）は23日、妹の名前をぬぐい、「73年も放っておいてごめんね」と涙ながらに語りかけた。

沖縄戦直前の1945年2月、父の新垣喜一さんの再婚相手の義母ナルさんと妹京子ちゃんの3人で沖縄本島最北部の国頭村の山中に建てられた小屋に疎開した。喜一さんは既に出征。4月1日に米軍が沖縄本島に上陸すると、祖父母らも合流し、米兵と遭遇しないよう集落からさらに離れた山中に避難した。

食料はナルさんらが山を下りて探し回ってくれた。「イモごはんがおいしかったことを覚えている」。だが、5月にナルさんが米兵の銃撃を受け、苦しんだ末に亡くなった。「家族を願ひ」。それが最期の言葉だったと親戚から聞かされた。

育ての親を失って祖父母と避難を続けたが、京子ちゃんは母乳をもらえずに栄養失調に。くず米で作ったおかゆやヨモギの汁を与えてもやせ細っていくばかりで、最期は声すら上げることなく静かに目を閉じた。「1歳だった。どうしようもなかった。泣いてばかりいたら、『泣いても帰ってこない』と祖父に怒られた」と振り返る。

戦後、父の戦死を知った。家は貧しく、中学校もまともに通えなかったが、20歳で同郷の真正さん（83）と結婚。60年ごろに豊かさを求めて家族でブラジルへ。当てにしていた農地は使える土地ではなく、都市のサンパウロへ移って縫製業や豆腐店などの商売で生計を立て、3男4女を育てあげた。90年代に沖縄へ戻った。

毎年、「慰霊の日」には「平和の礎」を訪れていたが、京子ちゃんの名前だけがないことがずっと気がかりだった。写真もなく、戸籍も残っていない。それでも小さかった妹の存在を残したい。昨年12月、位牌（いはい）や証言を基に県庁に追加刻銘を申請し、実現した。

礎に刻まれた家族の名に「京子」の文字が加わった。「今でも亡くなったのはついこの間のような気がする。京子のことを覚えているのは私だけ。諦めていたけれど、生きた証しを残せて良かった」

「平和の礎」には今年も58人の名前が新たに刻まれた。島全体が戦場となり、県民の4人に1人が犠牲となった沖縄。戦後73年がたっても、家族の生きた証しを求めて追加刻銘を希望する人が絶えない。【佐野格】

【詳報】首相、辺野古移設「最高裁判決に従い進める」

朝日新聞デジタル 2018年6月23日 16時52分



式典会場

に到着し、翁長雄志・沖縄県知事とあいさつする安倍晋三首相（中央）＝2018年6月23日午前11時49分、沖縄県糸満市、竹花徹朗撮影

沖縄で23日、戦後73年の「慰霊の日」を迎えました。糸満市摩文仁の平和祈念公園で追悼式が開かれ、夏の高校野球地方大会も開幕。沖縄をめぐる問題について専門記者が解説しながら、動きや発言をタイムラインで追いました。りゅうちえるさん、目撃した米軍ヘリ墜落 沖縄慰霊の日 安倍首相「私が先頭に立って沖縄の振興を」 あいさつ全文 翁長知事「辺野古に新基地、造らせない」 平和宣言全文 相良さん「もう二度と過去を未来にしない」 平和の詩全文



球場

で黙禱（もくとう）し戦没者に祈りを捧げる選手たち＝2018年6月23日正午、沖縄県沖縄市、日吉健吾撮影 高齢化した元「ひめゆり学徒隊」、涙ながらの校歌斉唱（14：30）

糸満市伊原の「ひめゆりの塔」。多くの同窓生を亡くした元女子学徒たちが、犠牲者の名が刻まれた碑に向かい、涙ながらに校歌を斉唱した。

《友よいとしの わが友よ／玉とかがよう 乙姫の／心のひかり みがきえて／世にかがみとし かがやかん》

沖縄師範学校女子部と、沖縄県立第一高等女学校から看護要員として地上戦にかり出された「ひめゆり学徒隊」は222人。そのうち123人が犠牲になり、50人余りはいつどこで亡くなったのか分かっていない。教師は18人が動員され、13人が命を落とした。学徒隊以外にも、91人の同窓生や教師が亡くなっている。

生存者の中には戦争体験の語り部を続けてきた人もいるが、高齢化で日常的な活動は困難に。先月には、1989年のひめゆり平和祈念資料館開館当初から語り部を務めていた一人、上原当美子さんが亡くなった。

合唱の後、慰霊祭の閉会あいさつに立ったひめゆりの生存者、本村つるさんは「同窓生と校歌と別れの曲を歌いますと、来し方の様々なことが思い出され、万感胸に迫るものがあります」。来年は資料館が開館30周年を迎えることにもふれて「また来年もお元気でお会いしたいと思います。ありがとうございます」と締めくくった。



式典中、

涙を流す参加者＝2018年6月23日午後2時39分、沖縄県糸満市の「ひめゆりの塔」、竹花徹朗撮影

（解説）秋の知事選、政権と翁長氏側の対決へ

就任後、4回目となる平和宣言を読んだ翁長（おなが）雄志（たけし）知事。安倍晋三首相らを前に「辺野古に新基地を造らせないという私の決意は県民とともにある」と言い切った。11月18日投開票の次の知事選が近づく中、政権と翁長氏の対決ムードを改めて印象づけた式典となった。

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設反対を掲げる翁長氏の任期は今年12月まで。翁長氏は2期目への態度はまだ示していないが、対立する自民側は候補者選を急いでいる。翁長氏ら移設反対派と、移設を進める政府与党

側とが正面から対決するのは間違いない。

報道機関の世論調査では、県民の辺野古移設への反対は今も根強い。一方で、2月にあった辺野古の地元・名護市の市長選では、翁長氏が支援した移設反対派の現職が、移設を事実上容認する新顔に敗北。工事が少しずつ進む中、翁長氏側は県内の首長選挙で支援候補が連敗するなど苦戦を強いられている。

加えて翁長氏は痔（すい）がんで、公務を限定するなど、健康面の不安を抱える。知事選の構図が固まるのは、まだ先になりそうだ。（上遠野郷）

牛島司令官の孫・貞満さん「祖父は優しくった。戦争は人を変える」（13：00）

東京都千代田区の弁護士会館で、「沖縄とともに～1945年6月23日を心に刻む」と題したシンポジウムがあった。

45年6月末に沖縄本島南部で自決した、牛島満・陸軍第32軍（沖縄守備軍）司令官の孫、貞満さん（64）＝東京都世田谷区＝が講演。「意見の違いを戦争ではなく、人間の知恵で解決したい。祖父は家族にも沖縄で会った人にも優しくった。戦場では人が変わる。戦争は人を変える」と語った。

同じ建物内では米軍機の事故に関する写真展も開催中。73年前に沖縄を占領した米軍は、地上戦のさなかから基地建設を進めた。それが、いまの在沖縄米軍基地の原型の一つ。

安倍首相、辺野古移設「最高裁判決に従って、進めていく」記者団に（12：58）

安倍晋三首相は沖縄全戦没者追悼式後、記者団に対して「戦後73年たった今も沖縄県のみならず、大きな基地負担を負っていただいております、この状況は是認できるものではない」と語り、基地負担の軽減を進めていく考えを強調した。

首相は「（沖縄県宜野湾市にある米軍）普天間基地の固定化は、絶対に避けなければならない」とも強調。同県名護市辺野古への移設に向けて「最高裁の判決に従って、進めていく」との考えも改めて示した。



沖縄全戦

没者追悼式を終え、記者の質問に応える安倍晋三首相＝2018年6月23日午後1時2分、沖縄県糸満市、金子淳

撮影

また、名護市の米軍キャンプ・シュワブ近くの農作業小屋で銃弾のようなものが見つかったことについては「人命にも関わりかねない、重大な問題だ」と指摘。22日に首相官邸で面会したハガティ駐日米大使に対して、事実関係の確認などで協力を求めたことを明らかにした。

（解説）政府と県の対立、かつてなく深まる 辺野古移設 政府が推し進めている米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画。しかし翁長雄志知事は一貫して「反対」を訴えており、政府と県の対立はかつてないほど深まっている。

発端は1995年の少女暴行事件だった。繰り返される米兵犯罪や、本土復帰後も変わらない基地負担に県民の不満が噴出。慌てた日米両政府は96年、市街地に囲まれた普天間飛行場を返還することに電撃合意した。

ただし、代わりの飛行場を「県内」に造ることが返還の条件とされた。これが、20年以上続く混迷を生むことになる。

計画を進めたい日本政府は、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの沖合を候補とし、その後、沿岸部を埋め立てて滑走路2本をV字に配置する今の案で米国と合意した。

だが、沖縄県民の反発は強かった。そんな県民感情を背景に、翁長氏は2014年の知事選で「移設計画をあらゆる手段で阻止する」と主張し初当選。国と争った裁判は16年に最高裁で敗れたものの、「奪われた土地（普天間）を返す代わりに別の土地（辺野古）を差し出せというのは理不尽だ」との訴えを変えていない。

一方の安倍政権も、移設計画は「問題解決の唯一の解決策」との立場を変えない。今年8月中旬にも土砂投入を始めるなど、辺野古の埋め立てを本格化させる予定だ。（上遠野郷）

（解説）平和の詩の相良さん、曾祖母から「戦争は人を鬼に変える」

今年の戦没者追悼式で、平和の詩を朗読したのは、浦添市立港川中3年の相良倫子（りんこ）さん（14）。沖縄県内の小・中・高校、特別支援学校から寄せられた971点の中から最優秀賞に選ばれた。

タイトルは「生きる」。生きている喜びや沖縄の美しい風景と、平和学習で学んだ戦争の悲惨な情景を対比させた。

「悩みながら書いた作品。私なりに、平和について定義したいと思った」という。

原点になったのは、94歳になる曾祖母の存在だ。沖縄戦で友人を亡くし、収容所に入る過程で家族と離ればなれになったという曾祖母からは「戦争は人を鬼に変える。絶対にしてはいけない」と何度も言い聞かされてきたという。

学校では生徒会副会長を務める相良さん。動物が好きで、将来の夢は「獣医」。大役が決まり、「亡くなられた方に対して、二度と戦争をしない平和な未来をつくることを誓う

つもりで読みたい」と話していた。その言葉通り、まっすぐ前を見つめて詩を読み上げた。(上遠野郷)

安倍首相「基地負担減らすため、結果出す」(12:39)

安倍晋三首相は沖縄全戦没者追悼式で「平和の礎に刻まれた全ての戦没者の無念を思うとき、胸の潰れる思いです」とあいさつした。沖縄に集中している米軍基地については「政府として、基地負担を減らすため、一つ一つ確実に結果を出していく決意であります」と強調。「私が先頭に立って、沖縄の振興を前に進めてまいります」と語った。



あいさつに向かう安倍晋三首相(右)へ視線を外す翁長雄志沖縄県知事(左)と見つめる参加者たち

2018年6月23日午後0時38分、沖縄県糸満市の平和祈念公園、松本俊撮影

式典では、正午に参加者が起立して約1分間黙禱(もくとう)。その後、首相が献花台に献花し、深く一礼した。中3・相良さんが平和の詩「私は今を、生きていく」(12:25)

浦添(うらそえ)市立港川中学校3年の相良(さがら)倫子(りんこ)さん(14)が壇上に立ち、自作した平和の詩「生きる」を朗読した。県内の小、中、高校、特別支援学校などから寄せられた971点の中から選ばれた作品だ。

〈七十三年前、／私の愛する島が、死の島と化したあの日。／小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。／優しく響く三線(さんしん)は、爆撃の轟(とどろき)に消えた。／青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。／草の匂いは死臭で濁り(中略)みんな、生きていたのだ。／私と何も変わらない、／懸命に生きる命だったのだ。〉

「生きる」という言葉にこだわり、平和学習で学んだ沖縄戦当時の情景を思い描いた。



朗読する相良倫

子さん=2018年6月23日午後0時31分、沖縄県糸満市、竹花徹朗撮影

94歳になる曾祖母は、沖縄戦で友人を亡くし、収容所に向かう途中で家族と離ればなれになった。「戦争は人を鬼に変える。絶対にしてはいけない」と幼いころから何度も言い聞かされてきた。それが平和を考える原点になったという。

〈鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。／命よ響け。生きゆく未来に。／私は今を、生きていく。〉

翁長知事、辺野古移設「全く容認できない」 参列者から拍手(12:21)

翁長(おなが)雄志(たけし)知事が平和宣言。6月12日に行われた米朝首脳会談に触れ、「朝鮮半島の非核化への取り組みや、平和体制の構築について共同声明が発表されるなど、緊張緩和に向けた動きが始まっています」と述べた。

日米両政府が進める米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設について、「平和を求める大きな流れの中にあっても、20年以上も前に合意した辺野古への移設が唯一の解決策と言えるのでしょうか」と疑問を投げかけた。その上で「アジアの緊張緩和の流れにも逆行していると言わざるを得ず、全く容認できるものではありません」と断言すると、参列者から大きな拍手が起こった。



「平和宣言」する翁長雄志

志・沖縄県知事=2018年6月23日午後0時27分、沖縄県糸満市、竹花徹朗撮影

翁長知事先頭に、献花始まる(12:05)

追悼式の会場では、翁長(おなが)雄志(たけし)知事を先頭に参列者の献花が始まった。

翁長知事は4月に脾臓(すいぞう)の腫瘍(しゅよう)を切除する手術を受け、その後、腫瘍はがんだったことを公表した。今も抗がん剤治療を続けている。この日は、かぶっていた黒い帽子を脱いでから献花台に向かった。

献花中は「つしま丸児童合唱団」と「那覇少年少女合唱団」の小中学生ら43人の合唱の歌声が、ピアノの伴奏に

合わせて響いた。

「6月23日待たず／月桃の花／散りました／長い長い／煙たなびく／ふるさとの夏」

曲の一つ「月桃(げっとう)」の一節だ。沖縄の学校で慰霊の日を迎えるこの時期、平和学習の観点からよく歌われている。シンガー・ソングライター海勢頭(うみせど)豊さんが作詞作曲し、沖縄戦の悲劇を描いた映画の主題歌にもなった。

球児が観客と黙とう 始球式を務めた安仁屋さんも(12:00)

第100回全国高校野球選手権記念沖縄大会は開会式に続き、コザしんきんスタジアム(沖縄市)で開幕試合があった。球陽と沖縄高専が対戦。4-2の球陽リードで五回が終わると正午を迎え、球児たちは試合を一時中断し観客と共に黙禱(もくとう)した。始球式を務めた沖縄(現・沖縄尚学)の投手で、広島カープで活躍した安仁屋宗八さんも、スタンドで黙禱した。



開幕試合で始球式を務めた後、スタンドで黙禱(もくとう)する安仁屋宗八さん(右) = 2018年6月23日正午、沖縄県沖縄市、宮野拓也撮影

4500人の参列者が黙禱(12:00)

正午の時報に合わせて、約4500人の参列者は静かに頭を下げたり、手を合わせたりして、沖縄戦の犠牲者に1分間の黙禱(もくとう)を捧げた。

市場でも黙とう(12:00)

那覇市の「国際通り」近くにある第一牧志公設市場。観光客でにぎわう中、正午になると黙禱(もくとう)を促すアナウンスが流れ、店主らが手を止めて1分間黙禱した。土産物屋の女性(73)は沖縄戦の当時、生まれて3カ月。母から、大きな声で泣く自分をおぶって逃げ回ったと聞かされた。父は召集されて防衛隊に入り戦死。顔もわからない。「何年経っても言葉では表せない気持ちです。平和な世界が一番。子どもにも孫にも、逃げ回るようなことはさせたくない」



第一牧志公設市場で黙禱

(もくとう)する店主ら = 2018年6月23日正午、那覇市、新屋絵理撮影

黙禱が終わると、同市の金城邦男さん(75)、信子さん(72)夫妻が「ひめゆりの塔」など戦争にまつわる歌を4曲披露した。14年前から慰霊の日にここで歌っている。邦男さんの親戚の男性は教員としてひめゆり学徒隊を率い、生徒数人とともに摩文仁(まぶに)で手榴弾(しゅりゅうだん)を使って自決した。「生きてくても生きられない悲惨さを思い、胸が詰まる。平和をどう作っていいのか考えたい」。信子さんも「自分にできることをしていきたい」と話した。

遺族らの「平和祈願慰霊行進団」が入場(11:30)

沖縄戦犠牲者の遺族らでつくる県遺族連合会の「平和祈願慰霊行進団」が、平和祈念公園の追悼式会場後方から6列になって入場した。車いすの人を押す人や親子連れの姿もある。

行進団は午前9時ごろ、糸満市役所前を約800人で出発し、約8.5キロの道のりを2時間ほどかけて歩いた。行進は沖縄の本土復帰前の1962年に始まり、今年で57回目。出発地点を変えながらも毎年続いている。安倍首相、平和祈念公園着 「NO安倍政権」掲げる人も(10:57)

安倍晋三首相が沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園に入った。その後の午前11時ごろ、公園内の国立沖縄戦没者墓苑で、福井照・沖縄北方担当相や謝花喜一郎・沖縄県副知事らとともに献花した。

公園の入り口では「NO安倍政権」「沖縄戦の慰霊とは基地を無くす事」と書かれた紙を掲げる人の姿もあった。師範学校生徒を慰霊 「2度と戦争起こさないのが、同僚へのあり方」(10:30)

平和祈念公園の海側の断崖に立つ沖縄師範健児之塔では、死者を悼む三線が奏でられた。14歳から19歳を中心に「師範鉄血勤皇隊」として戦場動員されて亡くなった沖縄師範学校男子部の生徒らを悼む慰霊祭。約200人が参列するなか、生徒らを引率し、45年6月21日に近くの海岸で死亡した野田貞雄校長の孫、謙二さん(61)も東京から駆けつけた。謙二さんは「亡くなった方々の魂の叫びが聞こえてきます。これからも慰霊祭を大切にしていきたい」とあいさつした。

師範鉄血勤皇隊は386人中226人が死亡している。生存者の一人が、昨年6月に亡くなった大田昌秀元知事。参列する生存者は年々減り、昨年は6人。その後、一人亡くなった。当時15歳だった古堅実吉さん(88)は「2度と戦争を起こしてはいかんとというのが、亡くなった同僚たちへの最大のあり方。73年経ちますが、誓いを新たにす日々です」と話した。

在沖米軍トップのニ科尔ソン中将、米兵の名も刻む平和の礎に献花(10:30)

沖縄に駐留する米軍トップのローレンス・ニコルソン中将らが平和祈念公園に姿を見せた。制服に制帽姿。沖縄戦などで犠牲になった米兵の名前が英字で刻まれた平和の礎（いしじ）の前に花輪を供えた。



米兵ら

に「今日は非常に大切な日」などと語りかける在沖米軍トップのローレンス・ニコルソン中将（左）＝2018年6月23日午前10時35分、沖縄県糸満市、伊藤宏樹撮影
記者団に「ここはとても心を動かされる場所。今日のこの日はとても大切だ」などと話した。

安倍首相、黒の「かりゆし」姿 那覇空港着（10：12）

安倍晋三首相が喪服の黒い「かりゆしウェア」姿で那覇空港に到着した。国会議員からは首相のほか、大島理森衆院議長と伊達忠一参院議長、福井照沖縄・北方担当相らが「沖縄全戦没者追悼式」に出席する。

選手宣誓「慰霊の日の沖縄から、平和への思い」北部農林・岸本主将（09：40）

高校野球沖縄大会の開会式では、北部農林の岸本宗太主将（17）が選手宣誓。「ここ慰霊の日の沖縄の地から平和への思いを込めて」と力強く告げた。岸本主将は最近になって、一緒に暮らしている曾祖父が沖縄戦を体験し、家族と一緒に逃げ惑ったという話を新聞で知ったという。「気になっていたけどずっと聞けなかった」といい、宣誓にも「平和」の文字を盛り込んだ。「自分たちのやってきたことを全て出したい」という岸本主将の初戦は、7月1日。



沖縄

大会の開会式で選手宣誓する北部農林・岸本宗太選手。スコアボードの上には半旗が掲げられた＝2018年6月23日午前9時37分、沖縄県沖縄市、日吉健吾撮影
高校野球沖縄大会が開幕 球場に「半旗」（09：00）



沖縄

大会の開会式で整列した選手たち＝2018年6月23日午前9時20分、沖縄県沖縄市、朝日新聞社へりから、堀英治撮影

第100回全国高校野球選手権記念沖縄大会が、南北北海道と並んで全国に先駆けて開幕した。晴天となったコザしんきんスタジアム（沖縄市）で、開会式が始まり、過去最多となる65校が入場行進。慰霊の日と開会式が重なったため球場には「半旗」が掲げられた。戦後、沖縄代表が甲子園に初出場してから60年の節目の大会となる。



沖縄大会の開会式で

一斉に行進する選手たち＝2018年6月23日午前9時18分、沖縄県沖縄市、日吉健吾撮影

（解説）慰霊の日、日本軍司令官が自決したとされる日
沖縄戦などで亡くなった戦没者を追悼する6月23日の「慰霊の日」。沖縄県内の学校や役所は休みとなり、各地で慰霊祭が開かれる。正午には県内の消防署などでサイレンが鳴らされて黙禱（もくとう）するなど、沖縄中が慰霊ムードに包まれる。

太平洋戦争末期の1945年3月下旬に始まった沖縄戦では、沖縄本島中南部や伊江島などで、軍民が入り乱れた激しい地上戦が行われた。北部や離島でも多くの人が飢えやマラリアで亡くなり、沖縄県によると、戦没者数は日米の将兵や民間人ら計約20万人にのぼる。うち沖縄出身者は、県民の4分の1にあたる計約12万2千人（住民9万4千人、軍人・軍属2万8千人）を占めた。

戦後の61年、米国統治時代の立法機関である「琉球立法院」が、沖縄の日本軍司令官が糸満市摩文仁（まぶに）の司令部壕（ごう）で自決したとされる日を「慰霊の日」と定めた。

ただ、自決日は6月22日との説もあるほか、それ以降

も散発的な戦闘は続いた。米軍に「保護」された民間人も、劣悪な収容所に押し込められ、多くの命が失われたといわれる。沖縄で日本軍が正式に降伏文書に調印したのは9月7日だった。(上遠野郷)

(解説) 平和の礎、24万人の名を刻む

平和の礎(いしじ)は、沖縄戦の激戦地の一つ、糸満市摩文仁(まぶに)の平和祈念公園内に造られたモニュメントだ。黒いびょうぶ型の刻銘版118基が扇形に並び、24万1525人の名前が刻まれている。戦後50年の1995年に建てられた。

一番の特徴は、沖縄出身者だけでなく、本土出身の日本兵や米英の軍人、朝鮮半島や台湾の出身者など、国籍や出身地に関係なく沖縄戦で亡くなった全ての戦没者名が刻まれていること。こうした慰霊碑は、世界中にほとんど例がないと言われる。

沖縄戦の戦没者は約20万人とされる。礎の刻銘数がそれより多いのは、沖縄出身者については1931年の満州事変以降の戦没者も刻銘されているため。学童疎開船「対馬丸」をはじめとする戦時遭難船や、沖縄全域が攻撃された44年10月10日の「十・十空襲」、激戦地となったサイパンなどの南洋群島でも、沖縄出身者がたくさん亡くなっている。

今年も新たに判明した58人が追加で刻銘された。激しい地上戦で戸籍などの記録が失われたうえ、戦後も米統治下に切り離されて長く混乱が続いたため、沖縄戦の被害の全体像は今もわかっていない。(上遠野郷)

孫に「戦争の怖さ、伝えなくちゃ」与那城哲雄さん(08:00)

午前8時を過ぎ、セミの声が大きくなった。ずらりと並ぶ「平和の礎」の刻銘板の前で、花やお菓子を手向ける家族連れの様子が増えてきた。

那覇市の与那城哲雄さん(79)は、孫の猪野屋望明(のあ)さん(14)と利桜(りお)さん(12)を連れて礎を訪れた。「これがいとこ。これがおじいちゃんのおばあちゃん」。刻まれた名前を指で一つずつなで、みんなで並んで手を合わせた。

サイパン生まれ。一家5人で暮らしていた4歳の時に米軍が上陸し、父と弟、妹を失った。サイパンの収容所で終戦を迎え、母と2人で沖縄に戻ると、祖父母や伯父、伯母、いとこらはほぼ全滅。自身は戦争の記憶はほとんどないが、「刻銘板のあちこちにね、全部で14人(親族の)名前があるよ。すさまじいことです」。

ここ5年ほど、孫を連れて礎を訪れている。「私らはやがてあの世に行く。戦争の怖さを、ちゃんと伝えなくちゃと思ってね」。隣で聞いていた利桜さんは言った。「大丈夫。これからも毎年ここに来るよ」

「戦後73年、軍の基地たくさん。平和な沖縄に」新垣好子さん(06:30)

南城市の新垣好子さん(78)は、沖縄戦で亡くなった父の具志堅政睦さんの名が刻まれた礎の前にごさを敷き、お盆の上には水、お茶、お菓子を並べ、たばこに火を付けて立てかけた。「いつも見守っててください、と祈りました」

終戦当時は5歳で、父の記憶はほとんどない。母も終戦の5年後に病気で亡くなった。「父の顔は写真でしかわからない。その上、母もいない。隣近所から家族だんらんの笑い声がする時や、学校の行事に友だちの親が来る日は、とにかく苦しかった。そんな子ども時分の思い出ばかりでね」



父の名前がある礎の前で手

を合わせる新垣好子さん(左) = 2018年6月23日午前6時28分、沖縄県糸満市、伊藤宏樹撮影

いま「戦争は完全には終わっていない」と思っている。

「戦後73年にもなって、沖縄には軍の基地がたくさんある。山のほうではまだ演習がある。孫たちが平和に暮らせる静かな沖縄にしてほしい」

兄が戦死「悲しさをこみ上げる」池原ヨシ子さん(05:45)

水平線にかかる雲の上に太陽が現れ始めたころ、沖縄市の池原ヨシ子さん(89)は、平和の礎(いしじ)に刻まれた兄2人の名前の上に正座した。名前の部分を何度もなで、紙袋から出した花と日本酒を供えて、静かに手を合わせた。「毎年のことなのに、何でここに来ると悲しさがこみ上げてくるのかねえ」

池原さんは7人きょうだいの末っ子。6番目の兄徳市さん(享年17)は那覇市の海軍司令部壕(ごう)近くで戦死し、長崎にいた4番目の兄亀助さん(享年27)は原爆で亡くなった。



兄2人の名

前が刻まれた礎石の前で手を合わせる池原ヨシ子さん = 2

2018年6月23日午前6時14分、沖縄県糸満市、伊藤宏樹撮影

高校を卒業して結婚し、3人の子どもに恵まれた。だが、おなかに3人目の子がいるころ、夫が家を出た。20代後半から英語を学び、米軍嘉手納基地で43年間、タイピストとして働きながら子どもたちを育てたという。

「寂しかったけど、とにかく働くしかなかった。私が健康でいられるのは兄たちのおかげ。戦争がない、平和な世界であってほしい」

陸上自衛官有志が慰霊（05:00）



黎明之塔に花を手向

ける陸上自衛隊第15旅団の隊員たち＝23日午前5時2分、沖縄県糸満市摩文仁

空が少し明るんできた午前5時すぎ、平和祈念公園（糸満市）の中で一番の高台に立つ「黎明（れいめい）之塔」に、制服姿の陸上自衛官約40人が現れた。一団は一言も発さずに花を手向けると、石碑に一斉に頭を下げた。

先頭に立つのは陸自第15旅団（那覇市）の原田智総旅団長。集まったのはあくまで「有志」で、前身の第1混成団が沖縄に置かれた1973年以来続く「私的な参拝」という。



黎明の塔に花を供え

る陸上自衛隊第15旅団の隊員ら＝2018年6月23日午前5時1分、沖縄県糸満市、伊藤宏樹撮影

黎明之塔は、沖縄戦を戦った日本陸軍の沖縄守備軍「第32軍」司令官の牛島満中將らの慰霊碑だ。戦いに殉じた指揮官である一方、司令部を首里から多くの住民がいた南部の摩文仁（まぶに）に撤退させて持久戦を続けたため、住民の犠牲を増やしたとも言われる。このため、牛島中將の碑を現役自衛官たちが制服姿で参拝することには異論もあり、インターネットなどで議論になることもある。

ただ、2回目の参加という井筒太介3等陸佐は「黎明之塔だけ訪れるのではないのに、そこばかり注目されてしま

う」と言う。実際、隊員たちは約40ヘクタールに及ぶ広大な平和祈念公園内を黙々と歩いて回り、一般戦没者を追悼する「しづたまの碑」や、殉職した県職員らを悼む「島守之塔」などにも花を手向けた。「あくまで戦没者たちを追悼したい。今日も静かに手を合わせました」

早朝から犠牲者悼む

「慰霊の日」は、太平洋戦争末期に激烈な地上戦が展開され、組織的戦闘が終わったとされる日だ。

沖縄県糸満市の平和祈念公園にある、沖縄戦の戦没者らの名前が刻まれた「平和の礎（いしじ）」には、早朝から、多くの人が訪れ、犠牲者を悼んだ。

沖縄戦は1945年3月末に始まった。4月1日には米軍の本島への上陸が始まり、当時の県人口の4人に1人にあたる県民12万人以上が犠牲となった。日米の軍人を合わせると、死者は20万人に上るとされる。



平和の礎には参拝

の人たちが訪れた＝2018年6月23日午前9時42分、沖縄県糸満市、朝日新聞社ヘリから、堀英治撮影



「健児の塔」の

下にあるガマで祈る仲本幸代さん（中央）と家族。「兄を亡くしました。天国からいつも私たちを見守ってくれている兄に感謝しています」と話していた＝2018年6月23日午前9時36分、沖縄県糸満市、竹花徹朗撮影



親族の名前が刻

まれた平和の礎の前で、手を合わせる夫婦と子どもたち＝

2018年6月23日午前6時42分、沖縄県糸満市の平和祈念公園、松本俊撮影



平和の礎の前で、涙なが

らに三線（さんしん）を弾く人＝2018年6月23日午前6時39分、沖縄県糸満市の平和祈念公園、松本俊撮影

特定秘密の運用は「適正」、420件廃棄も妥当 内閣府

朝日新聞デジタル二階堂友紀 2018年6月22日22時41分

特定秘密保護法の運用状況を検証する内閣府の山西宏紀・独立公文書管理監は22日、政府が2017年に新たに特定秘密に指定した39件、解除した9件について、いずれも「適正に行われている」とする報告を安倍晋三首相に提出した。

特定秘密が記載された保存期間1年以上の行政文書のうち、17年度中に計420件の廃棄を「妥当」と判断したことも報告した。内訳は、防衛省（400件）▽経済産業省（17件）▽防衛装備庁（3件）。内閣府情報保全監察室によると、これらは全て写しで、原本は保存されていることから「歴史公文書などに該当しない」と判断したという。

保存期間1年未満の特定秘密文書を巡っては、衆院情報監視審査会の審議で、16年中に44万件超が廃棄されていたことが判明。同審査会が保存や検証体制の見直しを求めているが、現在の特定秘密の運用基準では、1年未満の文書は独立公文書管理監の検証対象とはされていない。

また、特定秘密の保存や表示の仕方をめぐり、特定秘密が取り扱われる場所に携帯電話持ち込み禁止の掲示を怠っていた海上保安庁など3省庁に、是正要求をしたことも報告された。いずれも是正済みという。（二階堂友紀）

安倍首相出席の集中審議、25日実施 党首討論は27日

朝日新聞デジタル 2018年6月22日14時57分

自民党の関口昌一参院国会対策委員長と参院野党会派「国民民主党・新緑風会」の舟山康江国対委員長は22日に国会内で会談し、安倍晋三首相が出席する参院予算委員会の集中審議を25日に行うことで合意した。27日には党首討論も行う。予算委の集中審議と党首討論は野党側が延長国会で実施するよう要求。与党が受け入れた。

会談では、26日に参院の厚生労働委と内閣委を開き、働き方改革関連法案と米国を除く11カ国による環太平洋

経済連携協定（TPP11）の関連法案について首相が出席する質疑をそれぞれ行うことでも一致した。与党側は両法案の26日の委員会採決を提案したが、野党側は拒否した。

自民総裁選、9月20日投開票で調整 6年ぶり選挙戦か

朝日新聞デジタル明楽麻子 2018年6月22日18時01分

自民党は9月に予定されている党総裁選について、同月7日告示・20日投開票の日程を軸に調整する方針を決めた。党関係者によると、首相が22日ごろ、国連総会に出席するため訪米するとの意向に配慮した。8月に開く党総裁選挙管理委員会で協議する。

自民党は昨年、党則を改正し、総裁任期を「連続2期6年」から「連続3期9年」に延長した。

今回は3期連続当選をめざす安倍晋三首相のほか、石破茂元幹事長や野田聖子総務相が立候補に意欲。岸田文雄政調会長も検討している。

前回2015年の総裁選は安倍首相以外の立候補がなく無投票だったが、今回は野党だった2012年以来6年ぶりの選挙戦となる見通しだ。

自民党は近く選挙管理委員会のメンバーを選定し、日程などの協議を始める。（明楽麻子）

自民党総裁選日程と「ポスト安倍」候補の動き

7月

16、17日 石破派研修会

22日 国会閉会

26、27日 岸田派研修会

下旬以降 野田聖子総務相が政策集発表

9月

7日 総裁選告示（調整中）

20日 総裁選投開票（調整中）

麻生氏「10～30代、新聞読まない世代は全部自民党」

朝日新聞デジタル 2018年6月24日21時02分



講演する麻生太郎・副総理

兼財務相＝新潟県新発田市

麻生太郎・副総理兼財務相は24日、新潟県新発田（しばた）市で講演し、自民党支持候補が勝利した10日の同県知事選を引き合いに、自民支持が高いのは10～30代として、「一番新聞を読まない世代だ。新聞読まない人は、全部自民党なんだ」と持論を展開した。

麻生派議員の政治資金パーティーで語った。麻生氏は「新

聞とるのに協力なんかしない方がいい。新聞販売店の人には悪いが、つくづくそう思った」とも述べた。自身や政権に対する新聞報道への不満を漏らした格好だ。

カジノ法案賛成「与党として当然だ」公明・斉藤氏
朝日新聞デジタル 2018年6月24日 16時11分



斉藤鉄夫・公明党幹事長代行

斉藤鉄夫・公明党幹事長代行（発言録）

1年前の議員立法で出来た法律（解禁法）は（公明党の賛否が割れたが）、国会が政府に対してカジノを含む統合型リゾート法案を用意しなさいという法律だった。それが決定されて（成立して）国会の意思になった。その国会の意思にもとづいて政府が法案を作った。その法案の中に公明党が考える厳しい規制が入った。わたしは世界一厳しい規制の法案ができたと思う。与党として成立を図っていくことは当然だ。（NHKの討論番組で）

自民・河村氏、「集中審議は勘弁」の首相発言紹介を撤回
朝日新聞デジタル 明楽麻子 2018年6月21日 20時25分



河村建夫氏

自民党の河村建夫・衆院予算委員長は21日、安倍晋三首相が20日夜の会食時、「集中審議は勘弁」と発言したと記者団に紹介したことについて、「間違いだった」と撤回した。河村氏は「総理からは『予算委員会、よろしくね』という感じのあいさつがあったのは事実だが、『勘弁してほしい』という言い方はなかった」と釈明した。

首相は20日夜、麻生太郎財務相や自民党の二階俊博幹事長らと東京・銀座のステーキ店で会食。同席した河村氏が会食後、記者団に「（首相が）『もう集中審議は勘弁してくれ』って言うから、『なかなかそうもいかないでしょ』って言ったんですけど」などと説明していた。

この首相発言が報じられると、野党側は一斉に反発。国民民主党の大塚耕平共同代表は「不適切、不誠実な発言だ。

誠実な答弁は予算委でなされるべきだ」とし、立憲民主党の逢坂誠二衆院議員も「総理自身が丁寧に説明すると言っていることと真逆の発言だ」と批判した。足もとの自民党内からも「予算委員長は公平・中立の立場であるべきだ」などと苦言を呈する声が出ていた。（明楽麻子）

首相「もう集中審議は勘弁してほしい」言及 ステーキ店で

朝日新聞デジタル 2018年6月21日 05時00分

安倍晋三首相は20日夜、麻生太郎財務相や自民党の二階俊博幹事長らと東京・銀座のステーキ店で会食した。与野党対決となった新潟県知事選や延長国会への対応、9月の自民党総裁選などについて意見交換した。

麻生派の甘利明・元経済再生相や二階派の河村建夫衆院予算委員長らも同席。河村氏によると、首相は延長国会…

政府、ミサイルにちぐはぐ対応＝訓練中止も陸上イージス推進

北朝鮮による弾道ミサイル発射に備えた政府対応が一貫性を欠いている。米朝間の緊張緩和ムードを受けてミサイル発射を想定した住民避難訓練を中止する一方、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の早期導入方針は堅持。配備候補地からは「ちぐはぐだ」（佐竹敬久秋田県知事）と批判の声が上がった。

菅義偉官房長官は22日の記者会見で、栃木県などで予定していた訓練の中止を発表。記者団から判断理由を尋ねられると、菅長官は「米朝首脳会談の成果」に言及したものの、曖昧な説明に終始した。

防衛省は、米朝対話の継続中は「ミサイル実験が直ちに行われる蓋然（がいぜん）性が低い」（幹部）とみている。こうした現状認識を明確にできないのは、陸上イージスの着実な導入を目指す方針を変えていないからだ。

小野寺五典防衛相は22日、配備候補地の秋田、山口両県を訪れ、知事らに配備計画を説明。「北朝鮮の脅威は変わっていない」と述べ、理解を求めた。

陸上イージスの配備には「最低5年かかる」（防衛相）とされる。政府高官は「計画的に導入して情勢が変わっても対応できるようにする」と強調した。

こうした政府の説明に疑問を呈する声も出ている。秋田県の佐竹知事は21日、記者団に「脅威が薄らいだから訓練は一方的に中止し、こっち（陸上イージス）は急ぐというのは非常におかしい」と不満をぶつけた。防衛省幹部は「胸にすんと落ちる説明はできない」と頭を抱えている。

政府のいびつな対応の背景には、トランプ米大統領が米国製の防衛装備品購入を求めていることがあるとみられる。ある自民党国防族は「トランプ氏に頼まれているから陸上イージスの購入は止められない」と指摘した。避難訓練の中止期間が長引くにつれ、陸上イージス導入に対する地元

の反発は強まりそうだ。(時事通信 2018/06/24-14:06)

米韓演習中止「外交下支え」＝小野寺防衛相

小野寺五典防衛相は23日、米韓両国が8月に予定していた合同軍事演習に加え、さらに二つの合同演習の中止を発表したことについて「米韓の防衛当局が外交努力をいかに下支えするかという観点から判断したのではないか」と述べ、理解を示した。その上で「米韓合同演習は地域の平和と安定を確保していく上で重要な柱だ」と指摘し、引き続き米韓と緊密に連携する考えを強調した。那覇市内で記者団の質問に答えた。(時事通信 2018/06/23-19:01)